

「国語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

本調査は、生徒の国語の学力状況を調査・分析することにより、本県の今後の各学校における学習指導の改善を図ることを目的としている。

国語科の領域は「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔言語事項〕の3領域・1事項から構成されているが、本調査では、そのうちの「C読むこと」及び〔言語事項〕について、一部中学校の内容を含め高校1年生前半までの学習内容を、選択問題形式により問うものとなっている。

2 設問ごとのねらい，結果の分析と考察

□ 漢字・語句・文法

問1は「漢字」の読み書きに関する問題で、(1)～(3)は当てはまる漢字を選び、(4)、(5)は読みを選ぶもの。問2は「慣用句」の正しい使い方、問3は「敬語」の正しい用法、問4は手紙の結語と後付けの問題。問5は「文節」、問6は「主述」の関係に関する問題で、文の基本的構造を理解しているかをみるもの。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
問1	(1)	ア	96.3	3.1	0.6	2.0	0.8		0.3
	(2)	イ	67.4	31.8	0.8	25.7	1.9	4.2	
	(3)	ウ	29.3	69.7	1.0	42.4	27.0		0.3
	(4)	エ	94.8	4.4	0.8	2.1		1.4	0.9
	(5)	オ	41.4	57.4	1.2		7.0	23.8	26.6
問2	カ		11.5	87.5	1.0	32.7		7.0	47.8
問3	キ		79.2	20.0	0.8	6.4		10.7	2.9
問4	ク		49.6	49.6	0.8	34.2	9.8		5.6
問5	ケ		25.8	73.5	0.7	5.9		60.4	7.2
問6	コ		76.9	22.2	0.9		4.8	10.7	6.7

【考察】

問1(2)「真相を徹底的にキユウ(究)明する」については、25.7%が「求」4.2%が「及」を選んだ。「追求」「追及」を連想しての誤答と思われる。(3)「あの兄弟は対シヨウ(照)的だ」の正答率は29.3%と低く、42.4%が「称」、27.0%が「象」を選んでおり、同音異義語の使い分けが十分身に付いていない。(5)「横柄」については、23.8%が「おうぼう」26.6%が「おおがら」を選び、「おうへい」という言葉そのものを知らない生徒が多いのではないかと推察される。漢字に関する問題の結果からは、文脈に即し言葉の意味を考えながら漢字を適切に使い分ける力の不足が課題としてあげられる。問2慣用句「気の置けない」は、「気が許せない」の意に誤用されることが多いといわれている。正答率が低くなることは予測していたが、「気が許せない」よりも「落ち着きがない」の意味に解した者が多かったのはや

や意外であった。問3 敬語表現の正答率は 79.2 %で、尊敬語や謙譲語の働きについては概ね理解できていると考えられる。問4 は手紙の結語と後付けに関する問題である。手紙については小学校から学習している事項であるが、正答率は 49.6 %にとどまった。誤答 を選んだものが 34.2 %であり、「日付」を先に書くか、「相手の名前」を先に書くかの部分で理解の差が出たが、実際に手紙を書く機会、経験の量が反映しているものと考えられる。問5 の文節に区切る問題の正答率は、文語助動詞「べし」を含み難易度が高かったことにより、昨年を大幅に下回る 25.8 %であった。問6 主語・述語の関係についての問題の正答率はほぼ昨年度と同様である。

㊦ 現代文 評論

問1，問2，問3 は文脈を踏まえて内容を正しく理解できているか，問4 は本文全体の内容を正しく捉えられているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
㊦	問1	サ	66.9	32.8	0.3	17.1	7.4	8.3	
	問2	シ	63.3	36.2	0.5	21.7		10.3	4.2
	問3	ス	22.2	77.2	0.6		25.3	14.7	37.2
	問4	セ	24.6	74.6	0.8	30.5	19.5		24.6

【考察】

論理の展開の仕方を十分把握せず、感覚的に読んでしまったり、部分的な表現にとらわれてしまったりする傾向は昨年と同様である。また、評論文でよく用いられる用語の理解も不十分である。

の誤答率が高かったのは、選択肢の表現が紛らわしいことによるものと思われる。 は、本文に書かれていない内容であるにもかかわらず、それぞれ 10 %弱の誤答があった。選択肢と本文を照応させることなく、解答に根拠を求めないまま、なんとなく答えている様子が窺われる。問2 については、傍線部の前後に頻出する「多様性」「効率」の意味を読み取れたか否かが正誤の分かれ道になったのではないと思われる。説明的文章の読解において重要な「キーワード」を把握する力の不足が見て取れる。また、誤答率が高い にある「絶対的」「普遍的」「固有」といった言葉の理解が不十分なことも、正答率があまり高くない理由として考えられる。問3 は、本文の主題に関わる設問であり、論理展開を踏まえて『『数字信仰』からの解放』の意味を考えさせたいという狙いを持っていたが、22.2 %と低い正答率にとどまった。本文全体の論理を把握するのではなく、傍線部付近のみを近視眼的に読んで解答する姿勢が大きな要因ではないかと思われる。37.2 %が誤答した は、傍線部直後の「数字は私たちが使いこなすものだ」に結び付けてしまったものと推測されるが、選択肢の内容は本文から大きく外れたものである。また については、本文における「数字」「多様性」の意味の把握が不十分であることが高い誤答率につながっているように思われる。問4 は、本文全体の内容を、この文章を読んだ生徒の発言を通して問う設問である。授業後の言語活動の中で、本文の要旨を抽象から具体的に落として考えるという場面を想定したが、設問のスタイルに戸惑った生徒が多かったのか、正答率は低かった。

三 現代文 小説

問1, 問2は登場人物の心理を読み取れているか, 問3は文脈を正しく理解できているかをみる問題。問4は文章の内容と表現の特徴を正しく捉えられているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率			
三	問1	ソ	60.2	38.9	0.9	17.6		7.6	13.7
	問2	タ	82.6	16.7	0.7	4.4	6.4	5.9	
	問3	チ	63.6	35.6	0.8		25.2	4.5	5.9
	問4	ツ	59.1	39.9	1.0	8.3	21.2		10.4

【考察】

本文は長めであったが, 内容は非常に平易である。生徒にとっても抵抗感なく読めたためか, 全体としては昨年度より正答率は高かった。ただし心情理解にかかわる3問の結果からみて, 限られた範囲の内容理解は概ねできているものの, 全体的な, あるいは広範囲のポイントに注目して読み取るという点については課題が残る。

問1では, 判断材料となる箇所が, 本文前のリード文, 傍線部前の会話部分, 傍線部後の心内語といった形で散在する。それら全体を把握せず特定の表現だけに注目した結果として誤答の や を選んでしまった者が比較的多くなったと考えられる。それに対して, 問2の正答率は82.6%と高い。これは心情理解の根拠となる部分が傍線部直後に集中しているため, ある程度読解力のある生徒にとっては正解を見つけやすかったためと思われる。問3については, 誤答率が25.2%と高かった。問1と同様に広範囲への目配りが足らず, ある瞬間だけにとらわれ, そこに至るまでの経過をふまえて心情を読み取る力が不足しているためであろう。問4は文章全体の内容と表現の特徴を問うものであったが, 予想していたよりも正答率は低かった。本文が誰の視点で描かれているかは明らかであるが, 誤答率のばらつきからすると, 文章のあり方を分析しながら読むということが不得意な者も少なくないと思われる。

四 古文

問1は助詞の用法, 問2は動詞の活用, 問3は品詞の識別と, 古文の基礎的な知識を問う問題。問4は「いかでか」の部分で文脈を踏まえて適切に解釈できるかを, 問5は基本的な語句の意味を理解し, その理由を文脈から正しく捉えているかをみる問題。問6は本文全体の内容を正しく把握しているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)			
四	問1	テ	41.1	57.7	1.2	22.4	17.6	17.7	
	問2	ト	41.9	57.3	0.8	25.7	7.4		24.2
	問3	ナ	31.7	67.5	0.8	24.0	35.9	7.6	
	問4	ニ	35.1	63.9	1.0	41.1	15.1		7.8
	問5	又	43.4	55.7	0.9		23.4	9.3	23.0
	問6	ネ	62.7	36.3	1.0	14.0	12.7		9.6

【考察】

分かりやすく平易な話で, 昨年度より正答率は上がったものの, 古典を理解するための基礎的・基本的な知識・技能はまだ不十分である。

問1は、格助詞「の」についての出題であるが、文の前後から が主格（～が）になることを他と識別できれば容易に正答が求められる。問2は、「見えず」が未然形なのでその活用語尾「え」から答えを「見ゆ」と類推すべきところだが、「見る」や「見える」の誤答が多かった。問3は31.7%の正答率にとどまり、品詞の理解が十分にできていない。副詞との混同はやむをえないとしても、形容詞との識別はしっかり付けられるようにしておきたい。問4は、傍線部中の「いかでか」の正しい解釈が正答に結びつくポイントであるが、誤答の解答率が最も高いという結果になった。「いかでか」の意味がわからないまま、「べし」を「～にちがいない」と強い推量に解したと思われる。問5は、問6の文章全体の内容を把握するための補助的な設問で、傍線部の前の部分との繋がりを読み解けばいいのだが、傍線部の後ろに引きずられた や の誤答も多かった。問6の正答率62.7%は問5を大きく上回り、古文の設問中最も高い数値である。平易な分かりやすい話で、内容の大枠自体は掴みやすかったものと思われる。

3 分析のまとめと指導上の改善

< 分析のまとめと課題 >

(1) 全体的な傾向

平均正答率は52.9%（前年比 - 0.2ポイント）で、総合的な国語の力は昨年度と同程度と考えられる。

文章を論理的に読み解く力には課題が見られる。また、例年低い古典の正答率が若干上がったが、まだ力は不足している。

(2) 言語事項について

平易な漢字の読み書きについては、概ね理解できている。

同音異義語、慣用句、手紙の形式についての理解が不十分である。

論理的な文章に用いられる用語の理解が不足している。



< 指導改善のポイント >

基礎的・基本的な言語能力を確実に身に付けさせるために、話す・聞く・書く・読む活動と結びつけた指導や社会生活全般を意識した指導を工夫する。

漢字については、漢字練習帳での生徒の自学に任せるだけでなく、生徒が躓きやすいものを取り上げ重点的に指導する。その際、単純な反復練習にならないように、読む・書く活動と連動させながら、その漢字を用いた語例や文例を複数あげる、辞書を用いて字義を確認し訓と関連付けるなどする。

語彙・語句については、辞書を引くことが習慣となるよう、積極的に辞書を引いて意味を確認させるとともに、例文を作る、他の表現に置き換えるなど多様に活用させる活動も取り入れる。また、日常での使用頻度は少なくても、文章を読むために重要となる語彙・語句を意図的に取り上げる。

相手や目的に応じた文章を書く活動のひとつとして手紙を書かせ、手紙の形式の理解を図るとともに、手紙の必要性や良さについても考えさせる。

課題 1：社会人として必要な言語能力の基礎，表現力や読解力の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能が十分身につけていない。

(3) 現代文について

文章を限られた狭い範囲で読み取ることとは概ねできている。

論理的な文章について，論理の展開をたどり要旨を的確にとらえる力，読み取った内容をもとに発展的に考える力が不足している。

文学的な文章について，心情の変化を文脈に即して理解する力が弱い。

課題 2：文章の全体像をおさえた読み方や文章の特徴に応じた読み方を身に付けさせる指導，また読み取ったことをもとに考えさせる指導が不十分である。

(4) 古典について

基礎的な古語や文法等，古文を読むための知識・技能が十分身につけていない。

古典を読むことに不慣れで，展開に即して内容を正しく読み取る力が不足している。

文章の全体像をおさえた読み方や文章の特徴に応じた読み方を身に付けさせ，読み取ったことをもとに考える力を養うために，発問や指導法を工夫する。

評論文を構成メモや構造図に整理し要約する，小説の人物，情景，展開，表現の特徴を整理する等，考えながら書き，読みのポイントを確認できるワークシートを工夫する。

文章を読み比べ，論理の展開，表現の特徴や筆者の考え等について考察させる。

書き手の表現意図や表現効果などを考えさせる発問や，文章中から複数の要素をまとめ考察させる発問を工夫する。

論理的文章から読み取った内容を活かして身近な問題を考えさせる場面を授業の中に設ける。

生徒同士が意見を交流させ考えを深め合うペアやグループでの話し合いを設定するとともに，発表・発言に際しては常に根拠を明確にさせる。

古典への興味・関心を高めるために，教材や学習活動を工夫する。

古典原文だけでなく，古典に関する解説文，小説，随筆，評論等も広く取り上げ，紹介したり読ませたりする。

音読，朗読によって古典の文体やリズム感を味わわせたり，名文を暗唱させたりする

旧暦，国名，十二支，年中行事など，身近に生きる古典事項を調べたり，古典と現代の言葉や語法を比較して調べたりさせる。

課題3：古典に親しませ、その現代的な価値やおもしろさに気付かせるような指導の工夫が不足している。



古典を現代語訳するだけでなく、物語の登場人物の視点から作品を書き換える、随筆の筆者の視点に倣って随筆を書くなど、教材に応じて発展的に書く活動をさせる。

語彙力、言語感覚、読解力、表現力等、国語力を総合的に育成するために、幅広く読書させる。

授業教材から発展し、同テーマを別の視点で書いた文章と読み比べたり、同著者の他の作品へと読み広げたりさせる。

ブックトーク、ブックレビュー等の読書活動・読書指導、広告カードや帯づくり等本を題材とした表現活動を、学校図書館も活用しながら計画的に授業に組み込み、読書意欲を喚起する。

国語に対する生徒の学習意欲を一層高め、これからの時代に求められる論理的な思考力や表現力を育成するために、教材や学習活動を工夫する。

読むことの指導過程に、読み取ったことをもとにした、発表、討論、ディベート等の話す・聞く活動や、要約、リライト、鑑賞、批評、論説等の書く活動も取り入れる。

興味のある時事的な話題について、新聞、雑誌などの記事を収集し、事実と意見をまとめたり、比較・分析したりさせる。

図表など文章以外の資料を分析し、根拠に基づき自分の考えをまとめて書かせる。

身に付けさせたい力を明確にし、「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」を有機的に関連付けながら、生徒が主体的に学習を進められるように言語活動を工夫する。

学科群別正答率一覧

問題番号	記号	正答	全体 正答率(%)	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科
			52.9	56.5	43.0	52.5
第一問	ア	3	96.4	97.1	94.4	96.3
	イ	4	67.4	71.5	57.1	63.3
	ウ	3	29.3	32.3	21.2	27.7
	エ	2	94.8	96.5	90.3	94.1
	オ	1	41.4	44.1	32.5	45.1
	カ	2	11.5	12.5	7.8	13.3
	キ	2	79.3	83.2	68.1	79.1
	ク	3	49.6	50.8	45.2	52.7
	ケ	2	25.8	25.5	26.5	25.6
	コ	1	76.9	81.9	62.9	76.1
第二問	サ	4	66.9	70.7	56.4	65.9
	シ	2	63.3	68.5	48.7	62.0
	ス	1	22.2	24.3	16.1	22.1
	セ	3	24.6	24.7	24.1	25.7
第三問	ソ	2	60.2	62.8	52.7	60.3
	タ	4	82.6	87.4	69.4	81.6
	チ	1	63.6	67.4	52.6	63.6
	ツ	3	59.1	64.4	44.7	57.3
第四問	テ	4	41.1	45.9	26.5	43.4
	ト	3	41.9	50.9	17.2	37.6
	ナ	4	31.7	36.2	19.6	28.6
	ニ	3	35.1	38.8	24.1	35.8
	ヌ	1	43.4	49.3	27.4	40.5
	ネ	3	62.7	68.1	47.5	61.6

「数学」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

数学 で学習する「数と式」、「一次不等式」、「二次方程式」、「二次関数とそのグラフ」、「二次関数の値の変化」について、基礎的・基本的事項の理解をみることを中心とし、後半では複数項目を組み合わせた問題や数学的な読解力をみる問題も出題した。作成にあたり、学習指導要領「数学」の目標とねらいの達成状況が把握できるように、目標とねらいを分析し、参考とした。

1～7は、「数と式」についての問題、7～9は、「一次不等式」についての問題、10～12は、「二次方程式」についての問題、13～17は、「二次関数とそのグラフ」についての問題、18～19は、「二次関数の値の変化」についての問題であるが、各問の内容とねらいは、それぞれ次のとおりである。

設問	内容とねらい
1	式の展開を通して分配法則ができるかをみる問題である。
2	指数法則の理解度と計算力をみる問題である。
3	たすきがけを利用した因数分解の基本問題である。
4	(1)は整式を一つの文字に着目して整理できるかをみる問題、(2)は(1)を利用した因数分解の応用問題である。
5	無理数についての四則演算の計算力をみる問題である。
6	無理数についての四則演算の計算力と有理化ができるかをみる問題である。
7	不等式の性質をもとに一元一次不等式を解く力をみる問題である。
8	不等式の連立不等式を解く力をみる問題である。
9	問題文の内容を、不等式を用いて立式する力をみる問題である。
10	因数分解を利用する二次方程式の解法を通して、因数分解と二次方程式の解の意味についての理解をみる問題である。
11	平方の形に変形した二次方程式の解法を通して、2乗と平方根の意味についての理解をみる問題である。
12	二次方程式の解の公式の定着と活用の力をみる問題であるが、平方の形に変形する解法を用いれば中学校の学習内容で解くことができる問題である。
13	二次関数のグラフの平行移動についての理解をみる問題である。
14	二次関数を標準形に変形する計算力と、その結果からグラフの頂点の座標が読み取れるかをみる問題である。
15	グラフが通る点の意味をグラフから読み取り、連立三元一次方程式を立てるか、与えられた3点のうち2点が x 軸との交点であることを活用して、与えられた条件を満たす二次関数を求める問題である。
16	座標平面上で二次関数のグラフの平行移動と x 軸に関して対称移動が正しく行えるかをみる問題である。
17	(1)は二次関数のグラフの対称性を利用して、 x 軸との交点から軸の方程式を読み取る力と、正三角形の対称性を利用して考察する力をみる問題である。
18	二次関数のグラフを通して、二次関数の値の変化を考察し、最大値・最小値を求めることができるかをみる問題である。
19	二次関数の式とグラフの関係から平行移動についての理解と、最大となるところと軸の位置関係を考察する力をみる問題である。

2 結果と考察

1 $(x-2y)(2x+y) = 2x^2 - \boxed{\text{ア}} xy - \boxed{\text{イ}} y^2$

式の展開を通して分配法則の理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
1	ア	3	66.6	31.8	1.6	$2x^2 - 4xy - 2y^2$ (11.6%) $2x^2 - xy - 2y^2$ (6.2%) など
	イ	2				

【考察】昨年とほぼ同様の問題であるが、正答率が約2ポイント下がった。xyの項の係数について誤りが多く、分配法則による展開および同類項の整理について理解が不十分であることや、暗算による計算ミスが多かったことがうかがえる。分配法則が定着していない生徒に対しての指導が必要である。

2 $(-2a^2)^3 \times a = \boxed{\text{ウ}} a^{\boxed{\text{エ}}}$

指数法則の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
2	ウ		41.6	56.5	1.9	$-8a^6$ (24.4%) $-8a^9$ (4.6%) など
	エ					

【考察】昨年度の問題に「 $\times a$ 」を付け加えた問題であるが、正答率が予想以上の低さであった。誤答例を見ると「 $a = a^1$ 」として捉えていない生徒や、「 $a^m \times a^n = a^{m \times n}$ 」「 $(a^m)^n = a^{m+n}$ 」と誤解している生徒が非常に多いと考えられる。様々な分野において用いられることの多い指数の計算について、より丁寧に定着を図る指導が必要である。

3 $2x^2 + 3x - 2 = (\boxed{\text{オ}} x - \boxed{\text{カ}})(x + \boxed{\text{キ}})$

たすきがけを利用した因数分解の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
3	オ	2	72.1	24.3	3.6	$(2x-2)(x+1)$ (3.1%) $(2x-3)(x+1)$ (2.0%) $(2x-3)(x+2)$ (2.0%) など
	カ	1				
	キ	2				

【考察】昨年と同様に係数が素数の因数分解の問題である。今回はたすきがけの際に係数の対応を取り違えると「オ」「カ」ともに2が入り、一つの因数から2がくり出されなければならなくなることで誤りに気付きやすいことから、実際に誤答率も下がり、取り違いによる誤答そのものは3ポイント下がって半減した。たすき掛けによる因数分解は使用頻度も高く、更なる定着を目指していきたい。

4 整式 $A = x^2 + 4xy + 3y^2 - 3x - 5y + 2$ について

(1) 整式 A を x に着目して整理すると

$$x^2 + (\text{ク})x + (\text{ケ})$$

である。

x の項の係数 ク : 4 -3 $4y-3$ $4y+3y^2-3$

定数項 ケ : 2 $-5y+3$ $-3x-5y+2$ $3y^2-5y+2$

(2) 整式 A を因数分解すると,

$$(x + \text{コ})y - \text{サ})(x + y - \text{シ})$$

である。

二つの文字を含む整式の因数分解を，一つの文字に着目するなどして正確に処理できるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
4(1)	ク		70.5	27.2	2.3	$x^2 + (4y-3)x + (-3x-5y+2)$ (3.3%) $x^2 + (4y-3)x + (-5y+3)$ (2.6%) など
	ケ					
4(2)	コ	3	35.4	54.6	10.0	$(x+3y-1)(x+y-2)$ (8.5%) $(x+4y-3)(x+y-2)$ (3.9%) $(x+4y-3)(x+y-5)$ (1.8%) など
	サ	2				
	シ	1				

【考察】二つの文字を含む整式の因数分解について，一つの文字に着目して整理することの定着度をみるために段階的な小問構成にした。式そのものは昨年とほぼ同様の係数や符号を用いた。(1)は x について整理した式の係数や定数項を問う問題であったが，式の後半部分を見たまに定数項として答える誤答が目立った。(2)は(1)を踏まえて解答を導こうとしたことによって，逆に正答率は昨年度より約4ポイント下がり，誤答率のみならず無答率も増加した。今後は複雑な因数分解にも対応できるようにするため，一つの文字に着目して整理するよさや，その先の見通しをもって因数分解することを十分に理解させる指導が必要である。

5 $(\sqrt{2} + 2\sqrt{3})(\sqrt{3} - 4\sqrt{2}) = - \text{ス} - \text{セ} \sqrt{\text{ソ}}$

無理数のかけ算を通して，計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
5	ス	2	62.6	34.0	3.4	$-2 - 8\sqrt{6}$ (2.9%) $-2 - 2\sqrt{6}$ (2.3%) など
	セ	7				
	ソ	6				

【考察】分配法則や乗法公式を利用して展開するところで，暗算で計算することによる誤りや，その後の同類項をまとめる際の正負の数の加減での誤りと思われるものが多く見られた。また，根号を含む計算についてほとんど理解していないと思われる解答も25%ほどある。数学の学習には欠かせない計算であるので，確実な定着を図るような指導が必要である。

6 $\frac{4\sqrt{3}}{\sqrt{3}+1} = \boxed{\text{タ}} - \boxed{\text{チ}} \sqrt{\boxed{\text{ツ}}}$

無理数の割り算を通して、分母を有理化する方法の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
6	タ	6	49.4	42.6	8.0	6-4√3 (3.8%) 4-√3 (2.0%) など
	チ	2				
	ツ	3				

【考察】正答率が約 50%であり、正解は半数に止まった。最も多い誤答例は約分のミスと思われるが、その他の誤答の中には傾向は特に見られなかった。これは、分母が平方根だけの式ではない場合の有理化を理解していない、あるいは、根号を含む数の四則計算をよく理解していないことを表していると思われる。昨年度同様の正答率から見ても、正確な有理化の処理について定着を図るような指導が必要である。

7 1次不等式 $4x+1 > 3(2x+3)-4$ を解くと、 $x > \boxed{\text{テ}}$ である。

$$\begin{array}{cccc} x > 1 & x > 1 & x > -2 & x > -2 \\ x > -3 & x > -3 & x > -4 & x > -4 \end{array}$$

一次不等式を解く力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
7	テ		71.1	27.8	1.1	(10.6%) (6.6%) (2.9%) など

【考察】無答率が低く取り組みやすい問題であったようである。誤答のうち $x > 1$ は分配法則の間違い、 $x > -3$ は不等号の向き間違い、 $x > -3$ は左辺の+1を移項するときの間違い、 $x > -4$ は右辺の-4を見落としたことによる間違いと考えられる。不等式は、計算方法を理解するばかりでは不十分であり、導かれた解から具体的な数を用いて検算する習慣を定着させる指導の徹底が必要である。

8 連立不等式 $\begin{cases} 3x+5 > 2 \\ -2x+1 < 7 \end{cases}$ の解は、 $x > -\boxed{\text{ト}}$ である。

連立一元一次不等式の解法と解の意味、数直線の理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
8	ト	1	41.4	56.2	2.4	3 (32.1%) 4 (9.2%) 2 (5.9%) など

【考察】正答率が昨年度より 36.7 ポイントも下がる結果となった。 x に対する不等号の向きが同じである 2 つの不等式を連立させる問題であり、7 の正答率から見ると一次不等式まではできていても、負の数の大小関係や 2 つの不等式を連立させる意味を理解していない生徒が多いことが考察される。2 つ以上の不等式を連立させることは、今後の数学を学習する上で、確実な定着が求められる。

9 「京子さんは、80 円の郵送料で、友人に写真を郵送します。80 円で郵送できる大きさの封筒と写真をあわせた重さが 25 g 以下であれば、郵送料が 80 円になります。この封筒の重さは 7 g で、1 枚 4 g の写真をできるだけ多く入れて送りたいと思っています。そこで、京子さんは、写真を何枚まで送ることができるかということについて不等式を使って考えました。」

京子さんが使う最も適当な不等式は、送る写真の枚数を x 枚とすると、 である。

$$\begin{array}{lll} 4x+7 \leq 80 & 4x+7 \leq 25 & 4x+7 > 25 \\ 4x+7 < 80 & 4x+7 < 25 & 4x+7 < 25 \end{array}$$

問題文の内容を、不等式を用いて立式する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
9	ナ		64.0	34.3	1.7	(14.0%) (7.5%) (5.0%) など

【考察】不等式の立式の問題である。昨年度よりも具体的な場面設定をすることで、比較的取り組みやすい問題と思われたが、誤答例を見てみると、「以下」などという言葉と不等号の対応が理解できない生徒や、何を基準に立式するかという根本的な部分の読取りが不足していることがわかった。今後も、文章から式を立てる指導の徹底が必要である。

10 2 次方程式 $x^2 - 3x - 28 = 0$ の解は、 $x = -$, である。

因数分解を用いて、二次方程式の解を求める力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
10	二	4	72.9	24.0	3.1	$x = -7, 4$ (10.5%), $x = -3, 7$ (1.1%) など
	又	7				

【考察】昨年とほぼ同様の内容の出題である。正答率は昨年が 73.9% であり、1.0 ポイント減少した。これは、定数項の約数の個数が増えたためと思われる。無答率は昨年とはほぼ同じ 3.1% であった。中学校で学習する内容であるが、高校数学でも頻出する計算であり、確実に身に付けさせたい内容である。

11 2 次方程式 $x^2 - 6x = -3$ は $(x -$)² = と変形できるから、

この 2 次方程式の解は、 $x =$ $\pm \sqrt{}$ である。

二次方程式の平方完成による解法についての理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
11	ネ	3	39.7	47.9	12.4	$(x-3)^2 = 0$ より $x = 3 \pm \sqrt{6}$ (3.1%) $(x-3)^2 = 3$ より $x = 3 \pm \sqrt{3}$ (3.0%) など
	ノ	6				
	ナ	3				
	二	6				

【考察】昨年と同様、平方完成を用いた 2 次方程式の解法を問う問題である。正答率は昨年が 41.2% であり、1.5 ポイント減少した。2 次関数・2 次方程式以外にも平方完成が必要とされる場面は多く、また、解の公式を導くのに必要とされる式変形であることから、機会ある毎に定着を確認しておきたい。

12 二次方程式 $x^2 - 8x + 9 = 0$ の解は, $x = \boxed{\text{フ}} \pm \sqrt{\boxed{\text{ヘ}}}$ である。

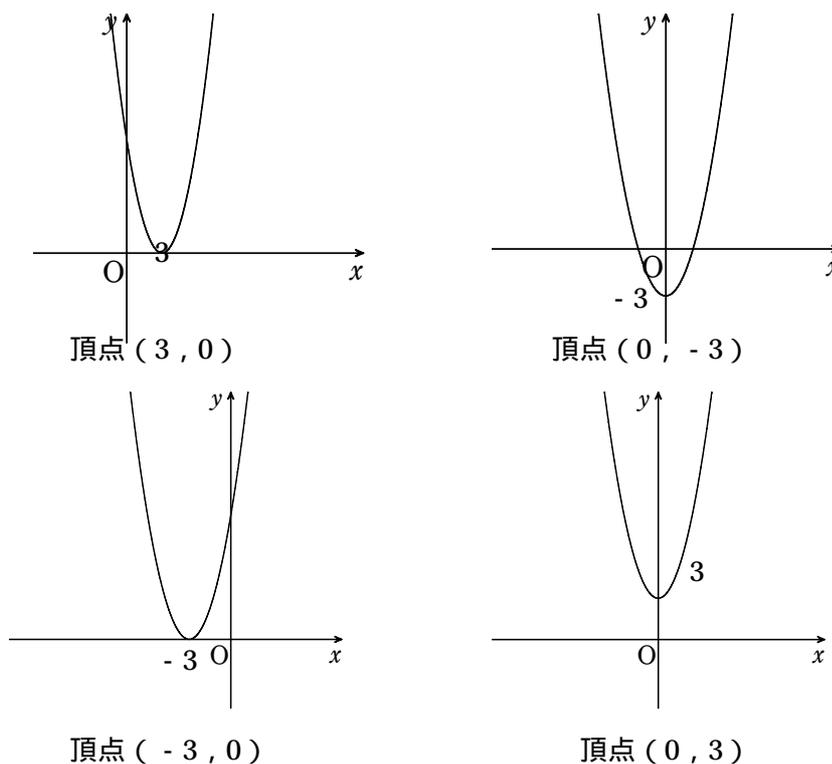
二次方程式の平方完成による解法や解の公式についての理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
12	フ	4	58.5	34.8	6.7	$x = 4 \pm \sqrt{3}$ (3.7%), $x = 2 \pm \sqrt{3}$ (1.7%) $x = 8 \pm \sqrt{9}$ (1.6%) など
	へ	7				

【考察】3年間の正答率は、55.9% 61.0% 58.5%と推移しており、昨年とほぼ同様の内容であるが、係数の値が大きくなっていたため、昨年よりも2.5ポイント減少した。二次方程式の解の公式は高校で初めて学習する内容であるが、よく使用されるので確実に定着を図りたい。

13 次の ~ のグラフは、二次関数 $y = x^2$ のグラフを平行移動したものである。

この中で、 $y = x^2 - 3$ のグラフは で、 $y = (x+3)^2$ のグラフは である。



二次関数のグラフの平行移動についての理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
13	ホ		78.4	20.6	1.0	(10.5%), (5.5%), (4.6%)
	マ		67.1	31.3	1.6	(13.0%), (12.9%) (5.4%)

【考察】3年間の正答率の推移は、ホで72.1% 75.8% 78.4%, マで61.8% 67.4% 67.1%となっている。ホについては昨年と同じ問題で、正答率は2.6ポイント増加した。マについては符号が変わっているものの、0.3ポイントの減少にとどまっている。ただ、昨年よりy軸方向の平行移動とx軸方向の平行移動についての正答率の差が広がっており、このことを十分理解したうえで指導にあたる必要がある。

14 二次関数 $y = x^2 - 4x - 2$ のグラフの頂点の座標は (, -) である。

二次式の平方完成を用いて、二次関数の頂点を求める力をみる問題

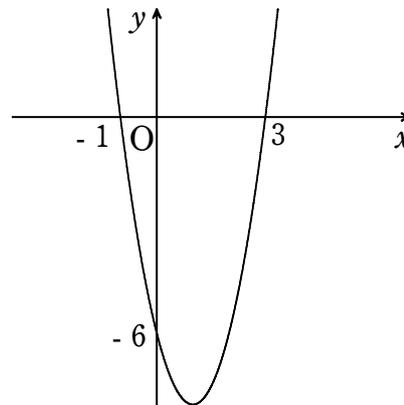
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
14	ミ	2	65.9	31.2	2.9	(4, 2)(10.7%), (2, 2)(4.9%)
	ム	6				

【考察】昨年とほぼ同様の内容の出題である。正答率は、昨年の63.7%に比べ2.2ポイント増加し、二次関数において、標準形への変形は定着しつつある。誤答例には式の係数をそのまま読み取ったものが多く見受けられることから、頂点の座標を求めるために平方完成する必要があることを確実に定着させておきたい。

15 右の図が二次関数のグラフであるとき、その式は

$$y = \text{} x^2 - \text{} x - \text{}$$

である。



与えられた条件を満たす二次関数を求める方法をグラフから判断し、計算する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
15	メ	2	30.3	55.5	14.2	$y = 3x^2 - x - 6$ (7.3%), $y = x^2 - 2x - 6$ (2.6%) $y = 2x^2 - 3x - 6$ (2.2%) など
	モ	4				
	ヤ	6				

【考察】昨年度と同じ座標の点を通る放物線を求める問題であるが、今年度はグラフから通る点を判断させ導かせた。昨年度の正答率は49.2%であり、約19ポイント減少した。昨年同様に計算がしやすかったにも関わらず、グラフに表示されている数値をそのまま係数としている誤答が多く、無答率も14.1%となった。座標がわかるグラフ上の3点を通る条件を正確に式に取り入れながら、二次関数の決定に関する解法を様々な角度から考察させる指導が求められる。グラフを見て必要な情報を的確に判断させる指導が必要である。

16 放物線 $y = 3(x-2)^2 + 1$ を x 軸方向に , y 軸方向に - だけ平行移動すると、放物線 $y = 3(x-4)^2 - 1$ に重なる。

さらに、放物線 $y = 3(x-4)^2 - 1$ を x 軸に関して対称移動すると、放物線 に重なる。

ラ: $y = 3(x+4)^2 - 1$ $y = 3(x+4)^2 + 1$ $y = -3(x-4)^2 + 1$

$y = -3(x-4)^2 - 1$

二次関数のグラフの平行移動と x 軸に関する対称移動の理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
16	ユ	2	71.2	25.1	3.7	x 軸方向に 2, y 軸方向に - 1 (8.3%), x 軸方向に 1, y 軸方向に - 2 (2.4%) など
	ヨ	2				
	ラ		45.1	52.0	2.9	$y = -3(x-4)^2 - 1$ (20.4%) $y = 3(x+4)^2 - 1$ (17.5%) $y = 3(x+4)^2 + 1$ (14.0%) など

【考察】二次関数のグラフの平行移動、対称移動を頂点の移動から正しく判断する力や、グラフを座標平面上に表現する力が求められる問題である。昨年よりも平行移動の正答率は高くなっていて、その知識が定着してきていることが窺えるが、それに比べて対称移動の正答率は低い。誤答例から放物線の上に凸、下に凸の判断や x 軸の対称移動における頂点の y 座標をグラフの概形をかいて視覚的に考察することが必要と思われる。

17 二次関数 $y = -(x-a)(x-3a)$ ($a > 0$) のグラフについて

- (1) このグラフの軸は直線 $x = \square$ リ \square a である。
- (2) このグラフと x 軸との 2 つの交点を A, B とする。線分 AB を 1 辺とする正三角形 ABP の面積が $4\sqrt{3}$ になるときの点 P の座標は,

$$(\square$$
ル \square, \square レ $\square\sqrt{\square$ ロ $\square})$

である。ただし、点 P の y 座標は正とする。

二次関数のグラフの対称性を利用して、軸の位置や図形の性質を的確に把握し考察する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
17	リ	2	51.9	40.1	8.0	3 (20.2%) 4 (10.9%) 1 (3.0%) など
	ル	4	11.8	64.5	23.7	$(2, 2\sqrt{3})$ (7.6%), $(2, 4\sqrt{3})$ (5.9%), $(2, 2\sqrt{2})$ (2.0%) など
	レ	2				
	ロ	3				

【考察】二次関数のグラフが軸に関して対称であることを利用して解く問題である。しかし、リの誤答例をみると、 x 軸との交点の座標から軸の位置を求められていない。さらに、軸の位置を理解した後、グラフと x 軸との交点からグラフの軸と正三角形の対称軸を重ね合わせて見ることができかがポイントとなる。二次関数のグラフと他の図形との融合問題など、応用・発展的な指導も必要である。

- 18 2次関数 $y = -x^2 + 8x - 11$ ($1 \leq x \leq 5$) の最大値は , 最小値は である。

二次関数の値の変化を的確に把握し、最大値及び最小値を求める力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
18	ワ	5	49.8	45.7	4.5	4 (32.0%), 2 (2.3%) など
	ヲ	4	70.6	24.9	4.5	5 (5.1%), 2 (5.1%) など

【考察】昨年度とは係数が異なるもののほぼ同じ問題であるが、昨年の正答率は、ワで 1.5 ポイント、ヲで 6.2 ポイント下がっている。ワの誤答例 4 から、定義域の端点の値だけで最大値・最小値を考察していることが読み取れ、さらに下に凸の二次関数と思い違いをしていることも多いことが窺える。二次関数の最大・最小を考える場合には、グラフの軸の位置が重要になるが、合わせて、上に凸か下に凸かを判断して、グラフをかいてから最大・最小値を考える指導が必要と思われる。

- 19 放物線 $y = x^2 + 4x + 5$ を x 軸方向に a だけ平行移動する。移動後の放物線をグラフとする 2 次関数が $0 \leq x \leq 2$ において、 $x = 0$ のときだけ最大となるときの a のとり得る値の範囲は である。

$$a < 0 \quad a > 0 \quad a < 2 \quad a > 2 \quad a < 3 \quad a > 3$$

$$a < 4 \quad a > 4$$

文字定数の変化から二次関数の位置の変化をとらえ、見通しをもって x 軸との位置関係を考察する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
19	ン		17.2	75.6	7.2	$a < 2$ (16.8%) $a > 2$ (14.4%) $a > 4$ (11.0%) など

【考察】 x 軸方向に平行移動させる値の大きさを変化させることによって最大となる場所を考察させる問題であった。その観点で考察することができない生徒や、軸の位置によって分析することが理解できていない生徒が多かったため、正答率がかなり低かった。文字を含む二次関数は、文字の値の変化によってどのように平行移動するかを理解させる指導が必要である。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

(1) 本質的な理解力, 活用力・応用力が不足しているため正答率下降

毎年ほぼ共通である基礎・基本を問う問題 1, 3, 5, 10, 12, 13, 14 では, 昨年の正答率との差が -3~+3 ポイントであり, 昨年とほぼ同程度と考えられ, 基礎・基本事項についての指導が充実してきていると考えられる。

問題 2, 8, 15 のように, 昨年と同じ内容でも, 省略された数字を読み取ることや, 数直線上やグラフから必要な条件を読み取るなど応用的な扱い方を要する問題, また, 問題 17 のように複数の図形の基本的性質を総合的に活用する問題は極端に正答率が低かった。

(2) 数学を学ぶ楽しさや意欲

問題 1, 5, 7, 10 のように, 正しい式変形を確実に行えば必然的に正答が得られるような問題は, 正答率が高く無答率も低いことから, 日頃の学習で, 基礎的な問題の反復練習が行われ, 積極的に解答しようという姿勢があることが窺える。これは, 数学に対して興味・関心を持たない生徒が少しずつ減少してきていると見ることもできる。

問題 4 のように複数の文字を扱う問題のときに, 1 つの文字に着目して整理することのよさや, 問題 16 のように, 平行移動や対称移動によって図形がどのように変化するかを, 興味・関心を持って理解しようとする姿勢が身に付いていないため, 無答率が高くなっている。

課題 1 : 数学を学ぶ楽しさや学ぶ意欲を向上させる指導の工夫が不足している。

(3) 論理的な思考力

昨年と同様に, 平方根を利用して(解の公式を具体化して)解く問題 11 の正

<指導改善のポイント>

数学を学ぶ意欲を向上させるために, 数学を学習する楽しさや意義, 数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

数学を学習する意義, 数学的な見方や考え方のよさ, 数学の美しさ, 文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解させ, 日常生活で体験する事柄を数理化するなど, 現実の生活を反映した問題を多く扱い, 生徒がその内容の必要性を感じられるような授業展開を考えることにより, 数学への興味・関心をもたせ, 学習意欲を高めることを大切にして指導する必要がある。

論理的に思考する力を育成するために, 思考力を互いに高め合う指導を工夫する。

授業において「公式や定理がなぜ成り立つのか。」という視点を重視する。具体例を一つ説明して, すぐ一般化するのではなく, 問題の解法が公式や定理を導く過程と一致している具体例をできるだけ多く扱うことによって, 公式や定理が役に立つことに気付かせることや, その途中過程を他の場面に応用できるような指導を工夫する。

発問を工夫し, 数学の学習を単に問題を解いて答えを求めるなどの知識の習得や技能の習熟にとどめるのではなく, 学習の必要性に気付かせ, 数学的な見方や考え方のよさが認識できるようにすることが大切である。

発表や検討(練り合い)などの様々な数学的活動を授業に取り入れて, 自分の考えを論理的に思考させ表現させる機会を設定する。自分の考えだけでなく, 他の人の意見の中に数学的な見方や考え方のよさを見つけることや, 他の人に分かりやすく説明しようとすることによって, 自分の思考過程を振り返らせることは, 知識・理解を定着させることに有効である。

論理的に表現する力を育成するために, 用語・記号を丁寧に説明するだけでなく, 数学的



答率は問題10よりも約30ポイント、問題12よりも約20ポイント下回った。二次方程式の解を求めることも大切であるが、どのような方法で解が求められるかを思考させることも、数学的な見方や考え方に触れる上で大切なことである。

問題19のように、文字を含む式において、文字の値を変化させてグラフの位置を考察し、その変化にともない最大・最小となる場合を論理的に分析する力が不足している。

課題2：公式や定理がなぜ成り立つのかを考えることや、文字を含む問題で、文字に具体的な値を代入し、変化を調べていくなどの数学的活動を通して論理的に思考させる機会が少ない。

(4) 問題文の読解力と立式、グラフや図の活用

問題9の正答率が6割強であったことから、問題文から式を立てる段階での誤りが多く、問題文が長い設問・文章が複雑である設問・教科書であまり見慣れていない表現等で聞かれると正答率が急激に下がる傾向がある。

問題17などは、放物線の対称性と正三角形の対称性を関連させて処理する問題であるが、式を立てて解く方法に固執しているための誤答や無答が多かった。

問題15においては、求める二次関数が通る3点の座標をグラフから読み取り解く問題であるが、昨年通る3点の座標を与えた問題より正答率が20ポイント下降した。常にグラフや図を考えながら解くことや、図やグラフから必要な情報を読み取る力が不足しているようである。

課題3：数学の用語や記号を用いて書かれた文章を式やグラフ・図を用いて表現することや、式やグラフ・図から必要な情報を読み取り、それを活用する力が不足している。

な表現に慣れさせる工夫をする。

数学の問題を解答する上で、一番大切な立式することの指導を工夫する必要がある。正しく問題文の内容を把握しているか、分析しているかを発問・発表や検討(練り合い)などの様々な形式で確認していく指導案を作成していく必要がある。

数学で用いられる用語や記号については、授業で説明するだけでなく、事象を自分の言葉で表現させ、その表現をさらに数学的な表現に発展させていくことや、逆に、式や記号で表現されていることを、自分の言葉で表現し相手に分かりやすく説明できるような内容を含む授業を工夫する。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解し処理するために、グラフや図を活用しながら、常に具体化させて思考させることを重視する。

文字を含む問題については、文字のまま処理していかないで、常に文字を具体的な数にした場合をいくつか比較し、実感が伴った分析ができるようにする。

ICTを積極的に活用して、文字を含む式で与えられた図形やグラフが、文字の値の変化にともなってどのように変化していくかを視覚的にとらえさせたりするなど、生徒に事象の変化や動きを実感させる様々な工夫をお願いしたい。

式だけが条件として与えられている問題についても、式変形だけで思考させず、グラフを利用して考えるとどうなるのか、表を作って変化の様子や成り立つ関係を予想させる、また、図形を用いて関係を表現し、位置関係や性質理解することによって状況を把握していくなど、様々な方法を用いて思考させる工夫をする。

一方的な授業にならないよう、数学的活動を工夫して授業を実践することにより、創造性の基礎を培い、数学を活用する能力と態度を育成することが今後求められる。

学科群別正答率一覧

問題番号	記号	ねらい	全体 正答率(%)	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科
			54.4	59.6	31.1	55.4
1	アイ	分配法則を用いて式の展開ができる	66.6	72.6	50.1	63.1
2	ウエ	指数法則を用いて式の計算ができる	41.6	47.4	25.9	38.6
3	オカキ	たすきがけによる因数分解ができる	72.1	79.9	49.6	70.0
4(1)	クケ	一つの文字に着目して式を整理できる	70.5	78.7	45.5	67.1
4(2)	コサシ	(1)を利用してやや複雑な式の因数分解ができる	35.4	42.9	12.6	32.8
5	スセソ	無理数を含む式の展開ができる	62.6	71.4	39.4	56.8
6	タチツ	やや複雑な無理数について分母の有理化ができる	49.4	59.7	18.7	46.1
7	テ	1次不等式を解くことができる	71.1	77.6	50.4	70.0
8	ト	連立一元一次不等式を解くことができる。不等式の解を数直線と対応させて理解している	41.4	47.1	21.7	41.8
9	ナ	文章を理解し、不等号を用いて立式することができる	64.0	69.7	46.7	60.4
10	ニヌ	因数分解を利用して二次方程式を解くことができる	72.9	79.8	54.2	69.4
11	ネノハヒ	平方完成を用いて二次方程式を解くことができる	39.7	49.7	12.1	36.4
12	フヘ	平方完成または解の公式を用いて二次方程式を解くことができる	58.5	67.8	29.0	52.9
13	ホ	二次関数のグラフの平行移動について理解している	78.4	80.1	68.4	79.2
	マ	二次関数のグラフの平行移動について理解している	67.1	70.6	46.8	66.9
14	ミム	二次関数の式からグラフの頂点を求めることができる	65.9	70.7	26.3	65.5
15	メモヤ	グラフの通過点から二次関数の式を求めることができる	30.3	32.2	2.5	38.9
16	ユヨ	二次関数の値の変化をグラフと対応付けて理解している	71.2	76.5	29.9	73.4
	ラ		45.1	47.0	28.0	50.2
17	リ	二次関数のグラフの対称性を利用して、2つのグラフの位置関係を考察できる	51.9	54.2	13.1	69.3
	ルレロ		11.8	12.2	1.7	21.5
18	ワ	定義域の意味を理解し、二次関数の最大値を求めることができる	49.8	51.2	28.8	56.4
	ヲ	定義域の意味を理解し、二次関数の最小値を求めることができる	70.6	73.6	35.1	74.1
19	ン	二次関数のグラフとx軸との関係を理解している	17.2	16.8	9.6	29.7

「英語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

「聞くこと」、「読むこと」及び「書くこと」の3つの領域について、英語を理解し、英語で表現するなどのコミュニケーション能力と、コミュニケーションを図るために必要となる英語の理解力をみることをねらいとした。

一昨年度から、財団法人日本英語検定協会の「英語能力判定テスト」の宮城県版を難易度別に3種類作成し、受検校各校が生徒の実力に合ったテストを選択し、より客観的な結果（「あなたは 級レベルの力があります。」）をフィードバックすることによって、英語学習のモチベーションを高めることをねらいとした。

3種類の問題の名称とレベルは以下のとおりである。

テストB：出題レベルは英検2級～3級程度。英検準1級から5級までの力を測定できる。

テストC：出題レベルは英検準2級～4級程度。英検2級から5級までの力を測定できる。

テストD：出題レベルは英検3級～5級程度。英検準2級から5級までの力を測定できる。

今回の各テストの受検者数は、テストBが3,160名、テストCが7,565名、テストDが3,615名であった。各級相当者数は、準1級レベルが6名、2級レベルが161名、準2級レベルが1,067名、3級レベルが4,914名、4級レベルが3,106名、5級レベルが5,086名であった。

テストB、C、Dともに各大問のねらいはほぼ同じである。

①では、英語コミュニケーションの基礎となる語彙・熟語・文法の知識を測定する。

②では、英文レポートやE-mailなどを書く上で基礎となる英文構成力を測定する。

③では、会話の流れを的確に読み取ったり、キーワードが何かを考えながら文章を的確に読み取る力を測定する。

④では、長文の内容を的確に読み取る力を測定する。

リスニングテスト Part 1では、会話の内容を正確に聞き取る力を測定する。

リスニングテスト Part 2では、まとまった英文の内容を正確に聞き取る力を測定する。

2 設問ごとのねらい，結果の分析と考察

テストBについて

① 基本的な文法・語法・語彙に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
①	1	2	96.3	3.7	0.0	「1」 1.5 % , 「3」 1.2 % , 「4」 1.0 %
	2	3	46.5	52.9	0.6	「1」 16.7 % , 「2」 14.7 % , 「4」 21.5 %
	3	4	86.1	13.7	0.2	「1」 2.5 % , 「2」 9.2 % , 「3」 2.0 %
	4	1	63.8	35.8	0.4	「2」 20.7 % , 「3」 12.5 % , 「4」 2.6 %
	5	4	13.4	86.0	0.6	「1」 19.5 % , 「2」 34.0 % , 「3」 32.5 %
	6	2	37.8	61.8	0.4	「1」 26.0 % , 「3」 22.4 % , 「4」 13.4 %
	7	1	32.6	66.6	0.8	「2」 14.6 % , 「3」 31.4 % , 「4」 20.6 %
	8	3	41.3	57.6	1.1	「1」 19.0 % , 「2」 20.1 % , 「4」 18.5 %
	9	2	56.3	43.2	0.5	「1」 15.9 % , 「3」 20.7 % , 「4」 6.6 %
	10	4	24.4	74.4	1.2	「1」 13.4 % , 「2」 35.7 % , 「3」 25.3 %
	11	1	18.5	80.5	1.0	「2」 17.3 % , 「3」 41.9 % , 「4」 21.3 %
	12	1	24.7	74.0	1.3	「2」 21.0 % , 「3」 27.6 % , 「4」 25.4 %
	13	4	17.6	81.2	1.2	「1」 15.9 % , 「2」 10.5 % , 「3」 54.8 %
	14	3	12.5	86.2	1.3	「1」 23.6 % , 「2」 16.3 % , 「4」 46.3 %
	15	2	12.2	86.9	0.9	「1」 27.6 % , 「3」 48.5 % , 「4」 10.8 %
	16	3	78.0	21.5	0.5	「1」 13.2 % , 「2」 5.5 % , 「4」 2.8 %
	17	1	70.7	28.7	0.6	「2」 10.8 % , 「3」 9.5 % , 「4」 8.4 %
	18	4	39.1	60.1	0.8	「1」 23.6 % , 「2」 16.2 % , 「3」 20.3 %
	19	4	26.3	73.0	0.7	「1」 8.4 % , 「2」 46.1 % , 「3」 18.5 %
	20	2	26.3	72.6	1.1	「1」 43.4 % , 「3」 18.5 % , 「4」 10.7 %
	21	3	28.6	70.3	1.1	「1」 15.4 % , 「2」 19.9 % , 「4」 35.0 %
	22	3	12.3	86.9	0.8	「1」 15.1 % , 「2」 55.6 % , 「4」 16.2 %
	23	2	18.2	81.0	0.8	「1」 31.9 % , 「3」 39.0 % , 「4」 10.1 %
	24	2	16.4	82.6	1.0	「1」 16.1 % , 「3」 28.1 % , 「4」 38.4 %
	25	1	20.6	78.0	1.4	「2」 17.9 % , 「3」 43.0 % , 「4」 17.1 %
	26	4	32.8	66.0	1.2	「1」 23.8 % , 「2」 20.7 % , 「3」 21.5 %
	27	2	67.1	31.9	1.0	「1」 20.1 % , 「3」 8.4 % , 「4」 3.4 %
	28	1	35.2	63.7	1.1	「2」 38.6 % , 「3」 7.6 % , 「4」 17.5 %
	29	4	38.4	60.3	1.3	「1」 23.5 % , 「2」 22.6 % , 「3」 14.2 %
	30	3	43.8	55.0	1.2	「1」 8.0 % , 「2」 34.3 % , 「4」 12.7 %

【考察】全体の正答率は37.9%であり，30問中14問で正答率30%を下回った。その中でも，8問が正答率が20%に達していなかった。また，正答率50%以上の問題は7問であった。

No.1～15は語彙力を試す問題である。No.1, 3, 4は基本的な語で，かつ前後関係から類推しやすかったため，正答率が60%を超えていた。一方，特に正答率の低かったNo.5, 11, 13, 14, 15では，正解となる単語を生徒がまだ学んでおらず，選択肢の中で知っている単語を選んだ者が多かったのではないかと推測される。

No.16～25はイディオムの知識を問うもので，No.22～24の正答率は20%未満であった。No.22, 24では感覚的に選んだり，なじみのある単語を選択する傾向が見受けられた。No.24では，

イディオムを知らずに、前後関係から意味を考えて、空所に入る可能性のありそうな別の語を選んだ誤答が多かった。

No.26 ~ 30 は文法的な判断力を試す問題である。No.26 では仮定法過去完了，No.27 では不定代名詞が形容詞として使われる際の用法，No.28 では分詞，No.29 では助動詞，No.30 では使役動詞の受動態がそれぞれポイントになっている。No.27 は生徒のよく知っている語で、会話でもよく使う表現のためか、正答率が 60%を超えていた。他の 4 問については、高校 1 年生の前半で学習したばかりでまだ十分定着していない、あるいは未習の文法事項であったため正答率は 30 ~ 40% 台前半であった。

以上、全体の正答率から判断すると、語彙や文法・語法に関しては今回のテストではまだ未習のものも多く含まれ、正答に至らなかったものも多いが、他方、既習でも定着がまだ不十分なものも見受けられる。数多くの英文に触れ語彙を増やす学習活動を続けていく一方で、言語学習においては繰り返しが大切であるため、機会を捉えて生徒に既習の語彙、文法項目を使用する機会を設ける必要がある。

② 短い文章の内容を参考に、与えられた英語で、語順が正しい英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率 +無答率	選択肢ごとの誤答率	
31	1	54.7	45.3	2 番目	「2」 12.6 % 「3」 3.5 % 「4」 5.3 % 「5」 1.8 %
	3			4 番目	「1」 3.6 % 「2」 8.8 % 「4」 27.8 % 「5」 0.7 %
32	5	10.9	89.1	2 番目	「1」 4.7 % 「2」 17.4 % 「3」 8.1 % 「4」 32.2 %
	1			4 番目	「2」 19.1 % 「3」 33.9 % 「4」 11.1 % 「5」 15.5 %
② 33	1	50.5	49.5	2 番目	「2」 6.2 % 「3」 13.2 % 「4」 7.2 % 「5」 3.6 %
	5			4 番目	「1」 5.2 % 「2」 14.4 % 「3」 10.0 % 「4」 5.4 %
34	1	11.5	88.5	2 番目	「2」 9.6 % 「3」 22.9 % 「4」 9.2 % 「5」 20.8 %
	3			4 番目	「1」 17.1 % 「2」 18.9 % 「4」 16.1 % 「5」 19.2 %
35	1	9.0	91.0	2 番目	「2」 32.0 % 「3」 9.0 % 「4」 10.4 % 「5」 7.2 %
	5			4 番目	「1」 12.0 % 「2」 9.5 % 「3」 23.5 % 「4」 34.0 %

「2 番目」・「4 番目」の「選択肢ごとの誤答率」はそれぞれの誤答である選択肢を受検者が選んだ割合を示し、「正答率」は両方を正しく選択した受検者の割合を示す。

【考察】全体の正答率は 27.3%であった。No.32, 34, 35 は特に正答率が低かった。No.32 は空所直前の接続詞が何と何を結び付けているのか判断できず、正解に至らなかったようである。No.34 は受動態でよく使われる動詞を能動態で使わなければならない、主語と目的語を取り違えてしまった生徒が多かったと推測する。No.35 では、how different + 主語 + 動詞の節が主節の動詞の目的語になるが、このような複文構造を苦手とする生徒が多いうえ、選択肢の助動詞の使い方がわからずに、正解が導けなかったものと考えられる。

英語の構文を理解したり、伝えたいことを適切な構文を用いて表現する能力を高めるには、普段から自分で英文を書く練習をする必要がある。英語 やオーラル・コミュニケーション I でも積極的に書く活動を取り入れていくことが大切である。

- 3 短文会話を読み、会話の概要・要点を理解し、発言意図を読み取り、それに対応して表現する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3	36	2	87.7	11.1	1.2	「1」 4.9 % , 「3」 4.2 % , 「4」 2.0 %
	37	3	76.6	22.1	1.3	「1」 7.4 % , 「2」 6.6 % , 「4」 8.1 %
	38	1	61.2	36.2	2.6	「2」 14.6 % , 「3」 13.8 % , 「4」 7.8 %
	39	3	50.5	46.9	2.6	「1」 21.4 % , 「2」 19.1 % , 「4」 6.4 %
	40	2	39.6	57.1	3.3	「1」 30.1 % , 「3」 17.2 % , 「4」 9.8 %

【考察】概ね高い正答率で、全体で 63.1%であった。唯一 50 %を切った No.40 については、空所に続く相手の応答中のイディオムや語彙がわからなかった、あるいは自分では経験したことのない状況の会話で、場面がうまく思い描けず正解を導けなかったのではないかと推察する。

- 4 英語の文を読み、概要・要点を理解し、書き手の意向などを読み取る能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	41	1	52.2	41.8	6.0	「2」 16.6 % , 「3」 13.5 % , 「4」 11.7 %
	42	3	39.9	52.3	7.8	「1」 15.4 % , 「2」 17.8 % , 「4」 19.1 %
	43	2	31.2	59.1	9.7	「1」 19.2 % , 「3」 25.0 % , 「4」 14.9 %
	44	1	33.3	56.3	10.4	「2」 20.8 % , 「3」 18.3 % , 「4」 17.2 %
	45	4	25.0	62.9	12.1	「1」 17.6 % , 「2」 21.6 % , 「3」 23.7 %
	46	4	31.7	55.2	13.1	「1」 17.0 % , 「2」 21.6 % , 「3」 16.6 %
	47	1	27.1	58.1	14.8	「2」 24.6 % , 「3」 21.9 % , 「4」 11.6 %
	48	1	24.6	60.2	15.2	「2」 20.9 % , 「3」 25.6 % , 「4」 13.7 %
	49	3	31.6	52.7	15.7	「1」 14.4 % , 「2」 23.0 % , 「4」 15.3 %
	50	3	29.9	54.3	15.8	「1」 17.2 % , 「2」 20.9 % , 「4」 16.2 %

【考察】No.41 ~ No.45 の平均正答率は 36.3%であった。No.41 は第 1 文に答えがあり、正解を見つけやすかったものと思われる。No.42 ~ 44 は選択肢中の語句が本文中で使用されているものと異なるものが多く、その言い換えに気づかず読み違えた者もいると推測される。また人名、地名など見たことのない固有名詞が出てきて内容理解を難しくしたのかもしれない。

No.46 ~ No.50 の平均正答率は 29.0%であり、無答率が全て 10 %を超えている。読解問題での無答率の増加は、それまでの問題に時間をかけ過ぎ、時間切れになってしまった生徒や、まとまった量の英文を読むことに慣れていないため、読むのを諦めてしまった生徒がいたためではないかと思われる。No.47 は問題文を読まずとも常識的に考えれば正解を導けるはずだと思われたが、正答率が 30%に達しなかった。質問文が place を動詞として使った受動態で書かれてあり、質問を理解できなかった、あるいは選択肢中に本文とは違う表現や未知語があったために本文と照らし合わせて正誤判断ができなかったためと推察される。No.48 は特に正答率が低かった。正解は本文中では異なる構文で書かれていたため、同じ内容を指すことに気づかなかったのかもしれない。選択肢 3 を選んだ生徒が多かったのは、注にあった単語が選択肢に含まれており、正解だと思ってしまった可能性がある。

2つの英文とも、設問は段落順となっており、段落ごとの内容をキーワードを参考に確かめながら読んでいけば解ける問題である。しかし、読解問題を解く時点では残り時間が少ないため、生徒は焦りながら、本文中に出てくるものと同じ単語や表現を頼りに選択肢を選んでしまうことになるのであろう。速読をしつつも内容把握のできる英語力が求められる。同じ内容の言い換え表現に慣れ、単に文字を追って読むのではなく、状況や場面を思い浮かべながら英文を読む習慣を身につける必要がある。

リスニングテスト Part 1 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 1	1	2	92.2	7.5	0.3	「1」 2.0 % , 「3」 3.8 % , 「4」 1.7 %
	2	3	82.9	16.8	0.3	「1」 7.7 % , 「2」 2.2 % , 「4」 6.9 %
	3	2	73.0	26.2	0.8	「1」 7.8 % , 「3」 5.8 % , 「4」 12.6 %
	4	2	61.8	36.7	1.5	「1」 15.3 % , 「3」 9.2 % , 「4」 12.2 %
	5	3	42.3	56.8	0.9	「1」 10.0 % , 「2」 25.6 % , 「4」 21.2 %
	6	4	66.7	32.7	0.6	「1」 22.3 % , 「2」 6.3 % , 「3」 4.1 %
	7	1	51.9	47.0	1.1	「2」 25.0 % , 「3」 14.5 % , 「4」 7.5 %
	8	4	32.2	66.7	1.1	「1」 4.8 % , 「2」 18.6 % , 「3」 43.3 %
	9	2	48.3	51.1	0.6	「1」 35.9 % , 「3」 9.8 % , 「4」 5.4 %
	10	1	27.2	71.9	0.9	「2」 32.6 % , 「3」 13.5 % , 「4」 25.8 %
	11	4	10.9	88.1	1.0	「1」 12.6 % , 「2」 61.6 % , 「3」 13.9 %
	12	1	31.8	67.6	0.6	「2」 14.2 % , 「3」 43.3 % , 「4」 10.1 %
	13	2	24.9	74.2	0.9	「1」 40.2 % , 「3」 17.8 % , 「4」 16.2 %
	14	3	35.9	63.1	1.0	「1」 23.7 % , 「2」 5.0 % , 「4」 34.4 %
	15	3	41.4	58.0	0.6	「1」 29.6 % , 「2」 17.4 % , 「4」 11.0 %

【考察】リスニングテスト Part 1 の平均正答率は 48.2% であり、正答率が 50% を下回った問題は 9 問であった。会話文中から必要な情報を拾い上げて答える問題と、会話全体の要約や背景を答える問題の 2 種類が出題されているが、後者のタイプを苦手としている者が多いことがわかる。その典型的な問題が No.11 で正答率は 10.9% であった。正解の選択肢は会話の内容を要約したもので、会話全体をしっかりと理解しないと正答に至らない。誤答で多かった選択肢 2 には会話中に出てくる表現が含まれており、聞き取れた表現を頼りに選択肢を選んだことが推察される。正答率が 20% 台である No.10 と No.13 は会話の後で話者が何をするかを問う問題であった。これも会話中に出てきた語句を頼りに選択肢を選んだ者が多く、完全な内容把握に至っていないことの表れであろう。今後の指導においては、聞こえてくる会話文を単語の羅列としてではなく、文脈をしっかりと把握し、場面を具体的に思い描き、背景状況も推察できるリスニング力を養う必要がある。

リスニングテスト Part 2] まとまった英文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取る能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 2	16	3	81.6	18.0	0.4	「1」 0.9 % , 「2」 1.6 % , 「4」 15.5 %
	17	1	75.9	23.7	0.4	「2」 9.3 % , 「3」 9.5 % , 「4」 4.9 %
	18	1	67.2	32.0	0.8	「2」 9.0 % , 「3」 12.6 % , 「4」 10.4 %
	19	2	57.0	42.4	0.6	「1」 26.0 % , 「3」 11.0 % , 「4」 5.4 %
	20	3	55.9	43.2	0.9	「1」 6.1 % , 「2」 11.0 % , 「4」 26.1 %
	21	2	45.3	53.4	1.3	「1」 7.7 % , 「3」 28.8 % , 「4」 16.9 %
	22	3	68.1	31.5	0.4	「1」 13.8 % , 「2」 11.2 % , 「4」 6.5 %
	23	2	48.3	50.1	1.6	「1」 14.8 % , 「3」 15.0 % , 「4」 20.3 %
	24	3	44.3	54.7	1.0	「1」 28.9 % , 「2」 14.8 % , 「4」 11.0 %
	25	2	40.3	59.1	0.6	「1」 20.3 % , 「3」 10.4 % , 「4」 28.4 %
	26	3	41.4	57.5	1.1	「1」 8.9 % , 「2」 29.0 % , 「4」 19.6 %
	27	4	21.1	78.0	0.9	「1」 17.1 % , 「2」 22.9 % , 「3」 38.0 %
	28	2	28.1	70.8	1.1	「1」 13.4 % , 「3」 34.0 % , 「4」 23.4 %
	29	1	28.1	70.6	1.3	「2」 26.8 % , 「3」 25.1 % , 「4」 18.7 %
30	3	22.3	76.6	1.1	「1」 16.7 % , 「2」 43.0 % , 「4」 16.9 %	

【考察】リスニングテスト Part 2 の平均正答率は 48.3% であり、Part 1 とほぼ同じである。特に正答率が低いのは最後の 4 問で、30% に達していない。集中力維持の問題もあろうが、正答率が低い問題を見ると、正解となる選択肢では読まれた英文と違う表現が使われており、Part 1 と同様に語句の聞き取りはできて内容把握に至っていないことが正答率の低さの主たる原因であろう。また、誤答を見ると、生徒は会話の後半に出てきた語句がそのまま使われている選択肢を選ぶ傾向が強いことがわかる。このリスニングテストでは、文章と質問文が一度しか読まれないため、答えのポイントとなる語句が文章の始めの方で話されたり、間接的にしか表現されていない場合には、生徒の記憶に残りにくく、正答率が低くなる傾向にあると考えられる。

一般的に、聞き取れた単語をつなぎ合わせて全体を理解しようとする bottom-up listening をしている生徒がまだ多いようである。今後は、ある程度まとまった量の英語を状況をイメージしながら聞き、聞き取れない語句があっても文脈からその意味を推測しつつ内容を把握できるような top-down listening もできるよう指導していく必要がある。

テストCについて

- ① コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現，語法事項など，言語に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
①	1	2	85.5	14.5	0.1	「1」11.6%，「3」2.3%，「4」0.6%
	2	1	59.6	40.2	0.2	「2」13.2%，「3」10.0%，「4」17.0%
	3	4	69.0	30.8	0.2	「1」10.4%，「2」11.1%，「3」9.3%
	4	4	48.2	51.5	0.3	「1」12.1%，「2」14.1%，「3」25.3%
	5	3	34.7	64.4	0.9	「1」31.0%，「2」17.6%，「4」15.8%
	6	4	37.7	61.8	0.5	「1」17.0%，「2」15.6%，「3」29.2%
	7	1	50.6	49.1	0.3	「2」11.8%，「3」22.9%，「4」14.4%
	8	4	53.6	46.1	0.3	「1」9.6%，「2」15.9%，「3」20.6%
	9	3	25.3	74.3	0.4	「1」26.9%，「2」27.4%，「4」20.0%
	10	3	40.9	58.5	0.6	「1」20.5%，「2」21.2%，「4」16.8%
	11	2	36.6	62.8	0.6	「1」19.0%，「3」22.8%，「4」21.0%
	12	2	35.0	64.4	0.6	「1」27.2%，「3」20.0%，「4」17.2%
	13	4	24.8	74.6	0.6	「1」43.0%，「2」17.4%，「3」14.2%
	14	4	33.6	65.8	0.6	「1」18.9%，「2」14.2%，「3」32.7%
	15	2	28.7	70.4	0.9	「1」18.7%，「3」38.1%，「4」13.6%
	16	3	21.4	77.3	1.3	「1」15.9%，「2」33.1%，「4」28.3%
	17	1	77.2	22.1	0.7	「2」8.5%，「3」7.8%，「4」5.8%
	18	1	42.3	56.9	0.8	「2」27.6%，「3」22.2%，「4」7.1%
	19	4	46.2	53.0	0.8	「1」9.6%，「2」31.7%，「3」11.7%
	20	3	31.7	67.4	0.9	「1」8.5%，「2」44.9%，「4」14.0%
	21	4	48.8	50.4	0.8	「1」25.2%，「2」10.8%，「3」14.4%
	22	3	38.3	60.8	0.9	「1」16.8%，「2」36.6%，「4」7.4%
	23	3	31.4	67.4	1.2	「1」24.7%，「2」21.9%，「4」20.8%
	24	1	33.0	65.7	1.3	「2」25.8%，「3」19.7%，「4」20.2%
	25	4	31.0	67.8	1.2	「1」20.3%，「2」13.4%，「3」34.1%
	26	3	55.1	44.0	0.9	「1」18.5%，「2」15.8%，「4」9.7%
	27	3	36.6	62.3	1.2	「1」14.5%，「2」18.3%，「4」29.5%
	28	1	26.0	72.8	1.2	「2」23.1%，「3」27.5%，「4」22.2%
	29	1	27.0	71.8	1.1	「2」17.0%，「3」35.2%，「4」19.6%
	30	4	25.3	73.5	1.2	「1」18.8%，「2」22.8%，「3」31.9%

【考察】全体の正答率は41.2%で、正答率が30%を下回ったのは30問中7問であった。昨年度は正答率が20%を切った問題が5問あったが、今年度は最も低い正答率の問題でも25.3%で20%を切った問題はなかった。No.1～No.16は語彙，No.17～No.25はイディオム，No.26～No.30は文法に関する問題である。それぞれの正答率は44.8%，42.2%，34.0%となっている。No.13は問題文，解答に入ると思われる語の意味は大まかに理解しているが，選択肢の各単語の正確な意味が掴めていない。イディオムに関しては，sit downのような基本的なものは理解しているが，それ以外の表現になると十分ではなく，正答率も低くなる。No.30は仮定法過去完了を理解していないと思われる誤答が多かった。一般的に，意味の分からない語が選択肢に含まれている場合，一つの選択肢をじっくり考えていけば，正答に結びつくものが多いが，あまり考えずにどこかで見たことがある，または聞いたことがある単語を選ぶ傾向が窺える。文法や語法の問題に関しては，定着が不十分で正答率も低い傾向があるが，地道にいろいろなパターンでの練習を重ねて，定着させていく必要がある。

- 2 与えられた英語で語順正しく英文を構成することにより，言語に関する知識・理解と表現する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
2	31	2	45.4	54.0	0.6	「1」21.4% 「3」25.6% 「4」7.0%
	32	4	55.3	44.1	0.6	「1」6.7% 「2」15.7% 「3」21.7%
	33	3	34.8	64.7	0.5	「1」32.2% 「2」24.3% 「4」8.2%
	34	2	40.0	58.9	1.1	「1」17.4% 「3」10.2% 「4」31.3%
	35	2	54.8	44.5	0.7	「1」29.8% 「3」8.7% 「4」6.0%

【考察】全体の正答率は46.1%であった。最も正答率が高かったのはNo.32だった。正答率が低かったのはNo.33で，so～that...の定型表現が定着していない誤答が見られた。基本的な文型(主語，動詞)を理解していないような誤答もあった。学習した表現を自分のものとして表現できるようにさせるためにも，何度も根気強く練習の機会を持つていくことが必要と感じる。

- 3 コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現，語法事項など，言語に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3	36	1	85.8	13.6	0.6	「2」4.5% 「3」6.4% 「4」2.7%
	37	1	78.9	20.4	0.7	「2」9.9% 「3」7.2% 「4」3.3%
	38	3	63.1	36.0	0.9	「1」14.2% 「2」11.0% 「4」10.8%
	39	3	46.4	52.1	1.5	「1」7.9% 「2」23.3% 「4」20.9%
	40	2	35.7	62.9	1.4	「1」26.5% 「3」14.3% 「4」22.1%

【考察】全体の正答率は62.0%と比較的高く，日常的な会話表現にはまです慣れていると思われる。その中でもNo.36, 37は正答率が70%を超えていて好成绩である。一方No.39, 40の正答率は低くなっている。どちらも疑問文への返答ではなく，前者の発話内容を理解して，適切な返答を選択する問題となっている。誤答からは，意味が理解できるものを生徒が選択しているものと考えられる。疑問文に対する返答方法だけでなく，会話に沿って適切に答える練習が必要である。

- 4 英語による説明文を読んで，書かれている概要・要点を理解する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	41	1	45.8	52.1	2.1	「2」45.1% 「3」4.6% 「4」2.4%
	42	4	70.5	27.3	2.2	「1」8.1% 「2」6.0% 「3」13.2%
	43	1	73.4	23.9	2.7	「2」6.8% 「3」10.3% 「4」6.8%
	44	2	76.2	20.6	3.2	「1」6.6% 「3」7.5% 「4」6.5%
	45	2	77.9	18.9	3.2	「1」6.2% 「3」8.1% 「4」4.6%
	46	4	34.9	60.4	4.7	「1」20.4% 「2」12.4% 「3」27.6%
	47	1	61.1	34.2	4.7	「2」13.6% 「3」9.6% 「4」11.0%
	48	3	44.4	49.3	6.3	「1」15.0% 「2」19.6% 「4」14.7%
	49	2	56.1	37.8	6.4	「1」8.4% 「3」17.0% 「4」12.4%
	50	4	42.4	51.0	6.6	「1」22.7% 「2」13.9% 「3」14.4%

【考察】No.41～No.45は，100字程度の手紙から内容を読み取る問題であり，平均正答率は68.8%であった。No.42以降は正答率が70%を上回っており比較的良好に理解していたようである。

No.46～No.50は，やや分量のある英文の内容を読み取る問題である。一文一文が比較的長く，全体でも250字程度の長文で，やや難しいと感じた生徒も多かったのか，無答率も他の問題に比べて高くなっている。平均正答率は47.8%と昨年度よりはやや上昇している。(昨年度は33.6%) No.46が，34.9%と最も正答率が低かった。キーワードとなる語を正確に読み取れなかったと思われる。次に低かったのはNo.50だが，この問題は英文の表現を，英文中とは異なる単語を用い

て解答する問題である。誤答となった選択肢を解答した生徒は、選択肢中で使用される単語を理解できていないと思われる。語彙力を養うことも必要だが、集中力を途切れさせずに、まとまりのある英文の内容を的確に読み取る力を身に付けさせたい。

リスニング・・・Part 1 (問題 1～15) Part 2 (問題 16～30)

リスニングテスト Part 1 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適当なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 1	1	2	88.8	11.0	0.2	「1」 3.5%, 「3」 2.4%, 「4」 5.1%,
	2	1	79.7	20.0	0.3	「2」 16.2%, 「3」 2.5%, 「4」 1.3%
	3	1	66.7	33.0	0.3	「2」 11.4%, 「3」 10.6%, 「4」 11.0%
	4	3	73.9	25.9	0.2	「1」 1.5%, 「2」 3.1%, 「4」 21.3%
	5	2	69.3	30.2	0.5	「1」 9.5%, 「3」 7.3%, 「4」 13.4%
	6	4	64.1	35.3	0.6	「1」 6.7%, 「2」 11.6%, 「3」 17.0%
	7	1	71.6	28.1	0.3	「2」 4.6%, 「3」 19.3%, 「4」 4.2%
	8	1	70.2	29.6	0.2	「2」 3.7%, 「3」 23.9%, 「4」 2.0%
	9	4	59.5	40.0	0.5	「1」 10.1%, 「2」 10.0%, 「3」 19.9%
	10	2	40.3	59.3	0.4	「1」 25.5%, 「3」 5.0%, 「4」 28.8%
	11	2	57.5	42.4	0.1	「1」 7.8%, 「3」 15.5%, 「4」 19.1%
	12	2	66.0	33.6	0.4	「1」 14.5%, 「3」 10.3%, 「4」 8.8%
	13	4	45.0	54.5	0.5	「1」 16.5%, 「2」 13.1%, 「3」 24.9%
	14	4	32.0	67.8	0.2	「1」 10.5%, 「2」 10.2%, 「3」 47.1%
	15	3	26.7	73.1	0.2	「1」 37.5%, 「2」 9.7%, 「4」 25.9%

【考察】リスニングテスト Part 1 の平均正答率は 60.8% で、昨年度よりも上昇している。正答率が 6 割を超えた問題が 9 問あった。4 割を切っている問題は No.14, 15 の 2 問だった。No.10 は数に関する表現が 4 つ、会話中に出てきた。一つ一つの内容を正確に捉えられずに、会話中に出てきた数字が答えである選択肢 1 や 4 の解答が多かった。No.11 も同じく数に関する問題であるが、こちらは全て選択肢が時刻で統一されているため、時刻のみに集中することが出来て、正答率も高くなっていた。No.15 では女性が電話をかけた相手に何を伝えたいのか、理由等も含めてきちんと聞き取ることが難しかったようである。以上のことから、聞き取る情報が複数になると、情報をまとめ、正確に判断できずに、印象に残ったものを選択していると考えられる。会話の内容を正確に理解できる力を養う必要がある。

リスニングテスト Part 2] まとまった英文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取る能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 2	16	1	88.7	11.1	0.2	「2」 4.4%, 「3」 4.7%, 「4」 2.0%
	17	2	70.1	29.7	0.2	「1」 10.9%, 「3」 11.4%, 「4」 7.4%
	18	3	68.8	31.0	0.2	「1」 22.1%, 「2」 6.5%, 「4」 2.4%
	19	3	51.9	47.8	0.3	「1」 19.2%, 「2」 12.1%, 「4」 16.5%
	20	3	48.8	50.9	0.3	「1」 15.3%, 「2」 22.7%, 「4」 12.9%
	21	4	57.0	42.4	0.6	「1」 15.1%, 「2」 13.6%, 「3」 13.7%
	22	1	41.8	57.7	0.5	「2」 7.2%, 「3」 36.0%, 「4」 14.5%
	23	1	52.7	47.0	0.3	「2」 34.4%, 「3」 8.2%, 「4」 4.4%
	24	2	48.3	51.3	0.4	「1」 8.4%, 「3」 13.3%, 「4」 29.6%
	25	1	39.3	60.2	0.5	「2」 20.0%, 「3」 30.2%, 「4」 10.0%
	26	1	55.3	44.2	0.5	「2」 12.3%, 「3」 17.9%, 「4」 14.0%
	27	4	55.1	44.2	0.7	「1」 12.1%, 「2」 23.3%, 「3」 8.8%
	28	3	44.1	55.2	0.7	「1」 16.6%, 「2」 21.2%, 「4」 17.4%
29	3	50.4	49.3	0.3	「1」 12.6%, 「2」 21.5%, 「4」 15.2%	
30	3	16.2	83.4	0.4	「1」 22.9%, 「2」 39.0%, 「4」 21.5%	

【考察】リスニングテスト Part 2 の平均正答率は 52.6%であった。No.16, 17, 18 は正答率が高く、正答率が 6 割を超えている。4 割を切った問題が No.25, 30 の 2 題だった(昨年度は 6 題)。No.30 は英文がやや長く、内容も難しく感じられたためか、英文中で最初に聞き取れた語を選択し、誤答となる生徒が多かった。Part1 同様、聞き取る内容が身近に感じられないテーマだったり、聞き取る情報が複数になると、単純に会話中に出てきた語句を選択する誤答が目立つ傾向がある。メモをとり情報をまとめる習慣、そして聞き取った内容から状況を的確に把握する力を身に付けさせるようなリスニングの練習をしていくことが求められる。

テストDについて

- ① コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現，語法事項など，言語に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
①	1	4	67.9	31.5	0.6	「1」 6.1%，「2」 14.6%，「3」 10.8%
	2	3	78.7	20.8	0.5	「1」 8.4%，「2」 9.0%，「4」 3.4%
	3	2	75.2	23.9	0.9	「1」 14.2%，「3」 5.5%，「4」 4.2%
	4	4	67.0	32.3	0.7	「1」 9.6%，「2」 10.6%，「3」 12.1%
	5	4	60.2	39.0	0.8	「1」 6.9%，「2」 19.5%，「3」 12.6%
	6	2	62.9	36.2	0.9	「1」 14.1%，「3」 13.4%，「4」 8.7%
	7	2	42.0	57.0	1.0	「1」 27.1%，「3」 18.0%，「4」 11.9%
	8	3	63.0	36.1	0.9	「1」 12.0%，「2」 13.0%，「4」 11.1%
	9	1	54.7	44.3	1.0	「2」 15.8%，「3」 14.2%，「4」 14.3%
	10	4	37.1	61.8	1.1	「1」 12.4%，「2」 32.2%，「3」 17.2%
	11	4	20.3	78.1	1.6	「1」 24.8%，「2」 19.2%，「3」 34.1%
	12	3	36.1	62.2	1.7	「1」 19.8%，「2」 20.6%，「4」 21.8%
	13	2	35.2	63.5	1.3	「1」 18.8%，「3」 24.0%，「4」 20.7%
	14	1	25.5	72.9	1.6	「2」 33.1%，「3」 18.7%，「4」 21.1%
	15	4	31.6	66.9	1.5	「1」 25.9%，「2」 21.6%，「3」 19.4%
	16	1	70.5	27.9	1.6	「2」 11.2%，「3」 8.1%，「4」 8.6%
	17	2	74.1	24.5	1.4	「1」 6.9%，「3」 11.3%，「4」 6.3%
	18	4	63.5	34.9	1.6	「1」 9.5%，「2」 10.6%，「3」 14.8%
	19	2	49.2	49.4	1.4	「1」 13.8%，「3」 20.9%，「4」 14.7%
	20	4	45.0	53.4	1.6	「1」 16.6%，「2」 20.0%，「3」 16.8%
	21	2	46.6	51.5	1.9	「1」 17.6%，「3」 20.4%，「4」 13.5%
	22	3	45.8	52.2	2.0	「1」 19.6%，「2」 20.3%，「4」 12.3%
	23	2	20.9	76.8	2.3	「1」 29.7%，「3」 25.3%，「4」 21.8%
	24	4	30.6	67.3	2.1	「1」 16.6%，「2」 25.4%，「3」 25.3%
	25	2	68.7	29.5	1.8	「1」 9.7%，「3」 11.3%，「4」 8.5%
	26	3	45.2	52.8	2.0	「1」 16.8%，「2」 12.0%，「4」 24.0%
	27	1	51.1	47.1	1.8	「2」 17.3%，「3」 10.9%，「4」 18.9%
	28	3	28.3	69.7	2.0	「1」 22.0%，「2」 13.8%，「4」 33.9%
	29	3	28.9	69.0	2.1	「1」 18.4%，「2」 25.0%，「4」 25.6%
	30	1	39.3	58.5	1.8	「2」 18.9%，「3」 26.7%，「4」 12.9%

【考察】全体の正答率は48.8%であった（昨年度は53.3%）。正答率が50%を下回ったのは30問中17問であった。その中でもNo.11，14，23が特に低かった。No.11は第2文型（SVC）を作る動詞の問題で基本的な問題であったが，正答以外のものを選んでいた生徒が80%近くいた。文型の学習は英語力の基本になるものなので，しっかり教え，定着させたい。No.23は適切な熟語表現を選ぶ問題だが，基本的な表現が定着していない。全体的には会話でよく用いられる表現や基本的な熟語・数量表現に関しては正答率が高かったが，受け身の文や分詞の後置修飾ができないなど基礎的な知識の定着は不十分である。文法学習においては，重要事項を徹底的に覚え込むべきであるが，リズムに乗せて，重要な表現や文を学習させていけば，少しずつ定着していくのではないだろうか。

- 2 与えられた英語で語順正しく英文を構成することにより，言語に関する知識・理解と表現する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
2	31	1	62.8	35.2	2.0	「2」15.5%，「3」15.4%，「4」4.3%
	32	4	63.5	34.2	2.3	「1」7.7%，「2」11.9%，「3」14.6%
	33	3	37.0	59.9	3.1	「1」14.9%，「2」21.1%，「4」23.9%
	34	4	32.7	64.5	2.8	「1」13.2%，「2」34.6%，「3」16.7%
	35	3	37.6	59.3	3.1	「1」15.4%，「2」27.5%，「4」16.4%

【考察】第2問の平均正答率は46.7%であった。No.31・32は正答率60%以上であり，基本的な疑問文と比較級の文章構成はできていたが，No.33～35の正答率はいずれも30%台であり，特にNo.34は32.7%となっている。No.33では第4文型(SVOO)の疑問文の構成，No.34ではhelpを用いた構成，No.35ではthere is / areの疑問文の構成ができていなかった。

- 3 会話形式の問題で，コミュニケーションを図るための適切な表現ができるかをみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3	36	4	58.1	39.1	2.8	「1」14.2%，「2」11.5%，「3」13.4%
	37	2	58.9	37.9	3.2	「1」14.1%，「3」14.9%，「4」8.9%
	38	1	36.0	60.1	3.9	「2」19.6%，「3」28.4%，「4」12.1%
	39	4	26.3	69.5	4.2	「1」21.7%，「2」21.9%，「3」25.9%
	40	4	25.3	70.3	4.4	「1」19.9%，「2」26.6%，「4」23.8%

【考察】第3問の平均正答率は40.9%であった。No.36・37は提案や疑問文への易しい応答で，正答率50%を超えている。No.38～No.40は正答率が30%前後で，特に，No.39・40は全体の4分の1ほどしか正答していない。No.39はAさんが提案している状況がつかみきれず，No.40は「私の順番」という表現が難しかったようである。会話形式の問題は，状況を的確に判断できる英語力を身に付けていかなければならない。

- 4 英語による説明文を読んで，書かれている概要・要点を理解する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	41	3	48.2	46.8	5.0	「1」15.0%，「2」19.7%，「4」12.1%
	42	2	41.1	53.2	5.7	「1」16.5%，「3」22.8%，「4」13.9%
	43	3	30.8	62.5	6.7	「1」22.8%，「2」20.7%，「4」19.0%
	44	2	37.1	56.1	6.8	「1」17.0%，「3」21.2%，「4」17.9%
	45	4	29.7	63.1	7.2	「1」16.1%，「2」26.0%，「3」21.0%
	46	1	29.4	63.0	7.6	「2」32.1%，「3」20.1%，「4」10.8%
	47	4	36.4	55.4	8.2	「1」15.0%，「2」19.6%，「3」20.8%
	48	1	31.2	60.4	8.4	「2」24.0%，「3」22.2%，「4」14.2%
	49	2	33.1	58.3	8.6	「1」17.0%，「3」21.5%，「4」19.8%
	50	3	38.0	53.4	8.6	「1」16.2%，「2」19.1%，「4」18.1%

【考察】第4問全体の平均得点率は35.5%であった。長文読解問題その1は37.4%で，その2は33.6%の正答率であった。No.41～No.45についてだが，No.41は，お見舞いにいつ来たかが理解できていないようである。No.42はジェーンの足の具合を尋ねているが，ジェーンの行動を述べた答えを選択した生徒が多かった。No.43～No.45は，No.43が希望(=未来)を尋ねており，No.44・45が事実(=過去)を尋ねているが，解答の多くは事実(No.43)，希望(No.45)を答えている。このように設問の疑問文に対して「思いこみ」読みをしている生徒が多い。キーワードで探す「スキミング」の技術を正確に身につけることで，得点力アップになるとと思われる。

No.46 ~ No.50 については、特に、No.46 は、正答率 29.4%で、1 行目にある叔父の農場の場所を見逃しているようであった。また、No.48 は「なぜ驚いたのか」という問いに対する適切な答えを見出していない。つまり、"Why - Because"の関係が理解できていないようである。普段から英問英答などを行うことで、質問への理解力を高めていてもらいたい。無答率も 7%を越えており、解答時間が足りなかったようである。

リスニング・・・Part 1 (問題 1 ~ 15) Part 2 (問題 16 ~ 30)

リスニングテスト Part 1 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 1	1	4	84.6	15.1	0.3	「1」 5.1%, 「2」 7.1%, 「3」 2.9%,
	2	3	87.8	11.9	0.3	「1」 5.0%, 「2」 3.9%, 「4」 3.0%
	3	2	86.4	13.4	0.2	「1」 5.4%, 「3」 5.5%, 「4」 2.5%
	4	1	86.2	13.6	0.2	「2」 3.7%, 「3」 6.0%, 「4」 3.9%
	5	1	65.2	34.4	0.4	「2」 25.1%, 「3」 4.1%, 「4」 5.2%
	6	3	61.1	37.8	1.1	「1」 10.5%, 「2」 17.5%, 「4」 9.8%
	7	2	73.3	26.3	0.4	「1」 18.3%, 「3」 3.5%, 「4」 4.5%
	8	1	65.9	33.5	0.6	「2」 9.9%, 「3」 14.6%, 「4」 9.0%
	9	4	47.0	52.6	0.4	「1」 4.3%, 「2」 35.8%, 「3」 12.5%
	10	2	67.6	31.9	0.5	「1」 9.0%, 「3」 15.7%, 「4」 7.2%
	11	4	35.4	64.1	0.5	「1」 21.7%, 「2」 6.9%, 「3」 35.5%
	12	2	41.2	58.2	0.6	「1」 18.8%, 「3」 13.9%, 「4」 25.5 %
	13	3	37.3	62.1	0.6	「1」 36.5%, 「2」 14.9%, 「4」 10.7%
	14	3	40.5	58.9	0.6	「1」 23.8%, 「2」 23.0%, 「4」 12.1%
	15	4	38.9	60.6	0.5	「1」 7.3%, 「2」 9.0%, 「3」 44.3%

【考察】リスニングテスト Part1 の平均正答率は 61.2%であった。No.1 ~ No.4 は正解を導き易い簡単な対話文であり正答率が高い。No.9, No.11 は答えが早い段階で話の中に出ているが、その後の情報に惑わされている傾向が強い。No.13 は、誤答の最も多かったものが「1」の「高校」であり、内容を部分的に捉えていたようである。No.15 は、「何が」ではなく、「いくら」割引になっているかを答えていた。内容を正確に理解する能力を身に付ける必要がある。音声の速度に慣れるためには、いろいろなものを何回も聞くことで、能力は開発されると思われる。まさしく、Practice makes perfect. (「継続は力なり」) である。

リスニングテスト Part 2 まとまった英文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取る能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 2	16	3	61.1	38.4	0.5	「1」 14.9%, 「2」 15.2%, 「4」 8.3%
	17	2	48.3	51.2	0.5	「1」 11.6%, 「3」 32.0%, 「4」 7.6%
	18	3	48.7	50.4	0.9	「1」 23.0%, 「2」 19.1%, 「4」 8.4%
	19	4	39.6	59.6	0.8	「1」 16.3%, 「2」 25.1%, 「3」 18.2%
	20	3	45.1	54.2	0.7	「1」 14.8%, 「2」 30.3%, 「4」 9.1%
	21	2	28.9	70.4	0.7	「1」 26.0%, 「3」 35.2%, 「4」 9.2%
	22	1	49.9	49.3	0.8	「2」 15.5%, 「3」 19.9%, 「4」 13.9%
	23	1	38.0	61.2	0.8	「2」 17.6%, 「3」 14.5%, 「4」 29.1%
	24	2	46.7	52.4	0.9	「1」 8.8%, 「3」 28.8%, 「4」 14.8%
	25	2	50.2	49.0	0.8	「1」 7.9%, 「3」 11.5%, 「4」 29.6%
	26	4	37.6	61.7	0.7	「1」 17.9%, 「2」 15.4%, 「3」 28.4%
	27	4	34.6	64.4	1.0	「1」 22.8%, 「2」 23.6%, 「3」 18.0%
	28	3	32.4	66.6	1.0	「1」 20.6%, 「2」 32.1%, 「4」 13.9%
29	4	16.8	82.5	0.7	「1」 38.7%, 「2」 25.0%, 「3」 18.8%	
30	3	42.1	57.1	0.8	「1」 26.7%, 「2」 18.0%, 「4」 12.4%	

【考察】リスニングテスト Part2 の平均正答率は 41.3%であった。対話文と異なり、まとまった文章を聞き答える形式の Part2 は全体的に正答率が低くなっている。No.17, No.20 は様々な情報を聞いて、整理して答える問題だが、最も多かった誤答は、文の最後に出ている情報を選んだものであり、早い段階に正答の情報が出ているものを選んだ生徒は少なかった。Dセットを受検した生徒には、特にその傾向が強いようである。No.29 は、「半年」の言い方が本文と選択肢で異なり、答えられない生徒が多く、正答率は 16.8%と最も低くなった。聞く回数が一度だけというところからも問題の難度は高いのだが、メモをとったり、アンダーラインをして や×をつけながら聞けば、得点力が高まるのではないかと思われる。様々な語彙の学習とリスニングの練習の積み重ねによって、英語を理解する力を高めていてもらいたい。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

(1) 全体的な傾向

各問題とも、理解力、表現力、思考力を重視しながら、英語によるコミュニケーションを図るために必要な英語力の定着をみようとした。

平成 20 年度の各テストの正答率は、テスト B が 42.1%, テスト C が 50.7%, テスト D が 47.5%である。テスト B, C, D 全体の平均正答率は 46.7%となる。

(なお、得点率を見ると、テスト B が 59.8%, テスト C が 55.2%, テスト D が 48.2%である。テスト B, C, D 全体の平均得点率は 50.5%



<指導上の改善ポイント>

まず 4 技能全般の改善点をまとめる。

段階的指導の充実を

授業では生徒の興味・関心・意欲と習熟の状況に見合った英語を、段階的に無理なく多用していくことが重要である。そのためには、生徒一人ひとりが英語学習の目標を持ち意欲的に取り組むよう指導する。また、この種の試験においては、より生徒のレベルに応じたテストを各高校で選択し、モチベーションをあげる必要があると思われる。

となる。平成 19 年度の英語の平均得点率は 54.4%であった。)

各級相当者数は、

準 1 級レベルが 6 名 (昨年度 5 名)、

2 級レベルが 161 名 (昨年度 176 名)、

準 2 級レベルが 1,067 名 (昨年度 1,025 名)、

3 級レベルが 4,914 名 (昨年度 4,202 名)、

4 級レベルが 3,106 名 (昨年度 3,380 名)、

4 級レベル以下が 5,086 名 (昨年度 6,518 名)

である。

準 2 級レベル以上が全体の 8.6% (昨年度 7.9%)、3 級レベルが全体の 34.3% (昨年度 27.5%)、4 級レベルが全体の 21.7% (昨年度 22.1%)、4 級レベル以下が全体の 35.4% (昨年度 42.5%) を占める。

全体的にみると、現高校 1 年生全体の英語力は、まだまだ満足できるところまで達していないものの、昨年度よりもかなり改善傾向にある。また、準 2 級レベル以上と 4 級レベル以下の層の差が縮まり、昨年度見られた二極化が緩和された。

(2) 語彙、基礎的・基本的な文法、語法や慣用表現

「日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」という学習指導要領の英語の目標を達成するためには、語彙力は非常に重要である。文法・語法・慣用表現についての問題である①について、テスト B、C、D 全体の平均正答率は 42.6% (昨年度は 43.7%) であり、定着がまだ十分とは言えない。

授業でよく使われる日常会話の初歩的な

中学校での指導内容との連結への配慮を

中学校では音声によるコミュニケーションを重視した指導が行われていることを踏まえ、高等学校の初期においては、「聞くこと」及び「話すこと」の言語活動を多く取り入れ、生徒が抵抗なく高等学校での授業を受けられるようにするとともに、次第に「読むこと」及び「書くこと」の言語活動の比重を高めながら、4 領域にわたる実践的コミュニケーション能力を育成することが求められる。特に、高校導入期に、中学校英語の総復習をするなど、中学校での指導内容との連携に配慮する。

生徒の興味・関心を持続させるための工夫

ペアワーク・グループワークなど様々なコミュニケーション活動を取り入れる。また、ALT との TT、AV 機器、身近な話題や季節に応じた話題など、飽きさせない工夫をする。

英語の使用頻度の高い授業

英語の授業を英語で行う割合を増やすよう、教員は生徒が理解できる英語を多用すると同時に、生徒も英語を使用するような授業展開を心がける。

以下各技能の改善点をまとめる。

語彙力向上のために、授業の中に語彙学習の機会を計画的に組み込むと同時に語彙の効果的学習方法を教える。

辞書を活用する。特に高校導入期に辞書の使い方を指導する。

文脈から意味を推測させるようにする。

接頭辞・接尾辞、派生語で覚えさせる。

授業の中でマッピング・枝分かれ図を用いる。

単語小テストを継続的に実施する。

朝学習や週末課題等を利用する

語彙・熟語は理解できている。

文の前後関係や会話のやりとりから判断して語彙・熟語を選択したり文法事項を理解した上で解答するといったやや複雑な設問になると正答率が低い。

課題 1：語彙力が低下し文法の理解が不足している。

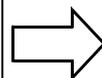
(3) 表現力

表現力には、音声による表現力（話す力）と文字による表現力（書く力）がある。本調査では話す力は把握できないため、書く力について語句整序問題である[2]の結果から述べる。テストB,C,D全体の平均正答率は40.0%（昨年度は43.7%）である。英文を構成する力や表現力の基礎はある程度身に付いていると判断できるが、総じて不十分である。

基本的な定型表現はある程度理解し活用できている。

単語だけでなく熟語やイディオムなど連語が含まれやや複雑な設問になると、正しく英文を構成することが困難になる傾向がある。

課題 2：連語を含んだ表現の英作文が弱い。



文法を定着させるために、文法の基礎的事項について繰り返し学習を行う機会を与える。

高校導入期に中学校の学習内容の総復習を行う。

朝学習や週末課題等を利用する。

A L TとのT Tを利用するなどして、授業の中で、学んだ文法事項を盛り込んだコミュニケーション活動を積み重ねる。

以上 については、生徒の実態に合わせて、練習問題等の基礎トレーニングを何度も繰り返すとともに、4 領域を有機的に関連付けた総合的なコミュニケーション活動を積み重ねることを通して、基本語彙を含めた基本文法や口語表現の定着と習熟を図ることが必要である。

表現力を育成するために、授業の中で「書くこと」の時間を確保する。

英語 における「読むこと」に関連づけた「書くこと」の活動として、各課・各章の内容を要約させる。

Q & Aの工夫をし、習った表現を使用して解答できるようにする。

与えられた表現を使用する機会を多く与える。

オーラル・コミュニケーション では、「聞くこと」及び「話すこと」の指導の効果を高めるために、「書くこと」とも関連付けた活動を行う。単語だけでなく熟語やイディオムなど連語が含まれた表現にできるだけ多くふれさせ理解させたいので、それをういた「書くこと」の活動を行う。

重要構文が含まれる教科書等の例文を覚えさせたいので、自分のことや簡単なテーマを与えて書かせる。

授業の中で書いた英文をA L Tに見てもらい助言を得る。

(4) 理解力

理解力には、音声による理解力(聞く力)と文字による理解力(読む力)がある。

読み取りについては、平易な説明文の概要を読み取る力はおおむね身に付いていると言える。しかし、語彙力不足に加え、ある程度まとまった英文を読むことや英問英答の形式に慣れ親しんでいないことから、正確に内容を把握し、適切に解答する力が不足している。

基本的な問いかけの解答状況を見ると、大意を把握する力はある。

表現形態を変えた文章になると的確にとらえられないため、意味を正しく理解する力が不十分である。

課題3：バランスがとれた読解力(速読と精読)が不足している。

対話とまとまりのある英文を聞いてその内容に答える設問については、基本的な5W1Hの問いかけ等の内容が分かりやすいものはよく理解できている。

内容がやや複雑になると、質問文の疑問詞が聞き取れても、単純に会話中に出てきた語句を選択する傾向があり、語句レベルで理解はできるが、内容理解に至る力が不足している。

課題4：単語レベルでの聞き取りはある程度できるが、まとまった英文の内容を理解する力が不足している。

読む力を養うために、文章の様々な読解方法を活用する。

概略を把握するためのスキミング(skimming)指導

必要な情報を選び出すためのスキヤニング(scanning)指導

論理的な文章構造をつかませるための段落構成を意識したパラグラフ・リーディングの指導(paragraph reading)

英文の内容と表現を深く詳細に分析しながら読むための精読

(intensive reading)指導

教室外での多読

(extensive reading)の奨励

生徒が持っている背景知識を活かせるように、pre-reading activityの読解指導を充実させる。

内容理解を深める活動として、「書くこと」に関連づけながら、各課・各章の内容を要約させる。

Q & AやT or Fの活動を取り入れて内容理解を深める。

以上をバランスよく指導していく。

聞く力を養うために、英語を聞かせる機会を多く設定する。

教師が授業において英語を使用する割合を増やす。

A L TとのT Tにおいて、生の英語に触れさせる。

生徒に聞くポイントやヒントを随時与えて、目的を持ったリスニングを多く経験させる。

まとまった文章をメモをとりながら聞き取るテクニックを教え、その訓練をしばしば行う。

テストの形式に慣れさせ、推測力を高めさせる。

ディクテーションやシャドーイングも適宜導入する。

語学学習に王道はないが、常に生徒の実態に留意しつつ、指導方法・手段を修正し、段階的に教える必要がある。教師も生徒も不断の努力を怠らず、さらに教師は生徒が飽きない工夫をすることが大切である。また、英語の授業を英語で行う割合を数パーセントでも増やすよう心がける。それは、授業の雰囲気高め、教員の英語力の向上を促すものとなる。また、英語の教員が、生徒のレベルに応じた英語を使用することにより、生徒のリスニングへの苦手意識を取り払うことにもつながる。さらに、英語科目は実技に近いものと認識し、文法等は知識だけで終わることのないように、使えるレベルになるまで様々な活動を取り入れて定着させる必要がある。

テスト別正答率一覧

分野	問題番号	テストB		テストC		テストD	
		正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率
語彙	No.1	96.3%	37.9%	85.5%	41.1%	67.9%	48.8%
	No.2	46.5%		59.6%		78.7%	
	No.3	86.1%		69.0%		75.2%	
	No.4	63.8%		48.2%		67.0%	
	No.5	13.4%		34.7%		60.2%	
	No.6	37.8%		37.7%		62.9%	
	No.7	32.6%		50.6%		42.0%	
	No.8	41.3%		53.6%		63.0%	
	No.9	56.3%		25.3%		54.7%	
	No.10	24.7%		40.9%		37.1%	
	No.11	18.5%		36.6%		20.3%	
	No.12	24.4%		35.0%		36.1%	
	No.13	17.6%		24.8%		35.2%	
	No.14	12.5%		33.6%		25.5%	
	No.15	12.2%		28.7%		31.6%	
	No.16	78.0%		21.4%		70.5%	
	No.17	70.7%		77.2%		74.1%	
	No.18	39.1%		42.3%		63.5%	
	No.19	26.3%		46.2%		49.2%	
	No.20	26.3%		31.7%		45.0%	
	No.21	28.6%		48.8%		46.6%	
	No.22	12.3%		38.3%		45.8%	
	No.23	18.2%		31.4%		20.9%	
	No.24	16.4%		33.0%		30.6%	
	No.25	20.6%		31.0%		68.7%	
	No.26	32.8%		55.1%		45.2%	
	No.27	67.1%		36.6%		51.1%	
	No.28	35.2%		26.0%		28.3%	
	No.29	38.4%		27.0%		28.9%	
	No.30	43.8%		25.3%		39.3%	
文章	No.31	54.7%	27.3%	45.4%	46.0%	62.8%	46.7%
	No.32	10.9%		55.3%		63.5%	
	No.33	50.5%		34.8%		37.0%	
	No.34	11.5%		40.0%		32.7%	
	No.35	9.0%		54.8%		37.6%	
読解	No.36	87.7%	42.7%	85.8%	59.5%	58.1%	37.3%
	No.37	76.6%		78.9%		58.9%	
	No.38	61.2%		63.1%		36.0%	
	No.39	50.5%		46.4%		26.3%	
	No.40	39.6%		35.7%		25.3%	
	No.41	52.2%		45.8%		48.2%	
	No.42	39.9%		70.5%		41.1%	
	No.43	31.2%		73.4%		30.8%	
	No.44	33.3%		76.2%		37.1%	
	No.45	25.0%		77.9%		29.7%	
	No.46	31.7%		34.9%		29.4%	
	No.47	27.1%		61.1%		36.4%	
	No.48	24.6%		44.4%		31.2%	
	No.49	31.6%		56.1%		33.1%	
	No.50	29.9%		42.4%		38.0%	

英語

テスト別正答率一覧

		テストB		テストC		テストD	
分野	問題番号	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率
リスニング	No.51	92.2%	48.2%	88.8%	56.6%	84.6%	51.2%
	No.52	82.9%		79.7%		87.8%	
	No.53	73.0%		66.7%		86.4%	
	No.54	61.8%		73.9%		86.2%	
	No.55	42.3%		69.3%		65.2%	
	No.56	66.7%		64.1%		61.1%	
	No.57	51.9%		71.6%		73.3%	
	No.58	32.2%		70.2%		65.9%	
	No.59	48.3%		59.5%		47.0%	
	No.60	27.2%		40.3%		67.6%	
	No.61	10.9%		57.5%		35.4%	
	No.62	31.8%		66.0%		41.2%	
	No.63	24.9%		45.0%		37.3%	
	No.64	35.9%		32.0%		40.5%	
	No.65	41.4%		26.7%		38.9%	
	No.66	81.6%		88.7%		61.1%	
	No.67	75.9%		70.1%		48.3%	
	No.68	67.2%		68.8%		48.7%	
	No.69	57.0%		51.9%		39.6%	
	No.70	55.9%		48.8%		45.1%	
No.71	45.3%	57.0%	28.9%				
No.72	68.1%	41.8%	49.9%				
No.73	48.3%	52.7%	38.0%				
No.74	44.3%	48.3%	46.7%				
No.75	40.3%	39.3%	50.2%				
No.76	41.4%	55.3%	37.6%				
No.77	21.1%	55.1%	34.6%				
No.78	28.1%	44.1%	32.4%				
No.79	28.1%	50.4%	16.8%				
No.80	22.3%	16.2%	42.1%				
平均正答率		42.1%		50.7%		47.5%	
B,C,Dの平均正答率		46.7%					

平成20年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(1学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19
17.8	39.1	49.1	23.0	22.2	33.1	31.5
10.4	15.7	13.3	6.8	8.1	11.2	11.6
2.8	3.1	3.0	5.2	3.9	3.6	3.3
16.9	15.6	10.7	19.5	18.9	15.8	16.6
26.7	10.4	7.5	23.1	22.0	16.2	17.2
3.2	2.3	2.1	3.7	3.8	2.9	3.7
0.3	0.2	0.0	0.7	0.6	0.3	0.3
16.2	11.7	12.3	15.7	15.4	13.9	13.2
3.9	1.6	1.6	2.0	2.1	2.0	2.0
1.8	0.3	0.4	0.3	3.0	1.0	0.6

4年制国公立大学
4年制私立大学
短期大学
専修学校・各種学校
民間就職
公務員就職
家業
未定
その他
記入ミス・無答

- ・ の国公立希望が1.6ポイント増加。
- ・ 4年制大学・短大への進学希望者(~)が47.9%で、昨年度より1.5ポイント増加。
- ・ の専修学校・各種学校、 の民間就職がそれぞれ0.8ポイント、1ポイント減少。
- ・ ~ の就職希望者は19.4%と昨年度より1.8ポイント減少。

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19
49.6	49.3	53.1	50.2	46.8	50.1	51.0
9.4	10.8	9.7	10.3	11.8	10.4	11.0
20.2	22.8	21.9	21.5	20.9	21.6	21.1
11.8	11.0	10.0	10.9	11.7	10.9	10.7
7.1	5.9	4.6	6.2	5.1	5.6	5.4
1.9	0.2	0.7	0.9	3.7	1.4	0.8

卒業までに絶対達成しようと思っている。
達成するまで、卒業後1,2年かかってもかまわないと思っている。
卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
何とかなるだろうと思っている。
あまり考えないようにしている。
記入ミス・無答

- ・ 「卒業までに絶対達成しようと考えている者」及び「卒業後1,2年かかっても達成したいという者」が1.6ポイント減少。
- ・ のように進路に対してのこだわりが弱い層が0.4ポイント増加。
- ・ のような進路意識の希薄な層が0.4ポイント増加。

Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19
10.1	11.9	12.5	10.0	10.7	11.2	11.2
12.1	12.4	13.1	12.4	13.2	12.7	12.5
10.3	11.3	12.8	11.4	10.7	11.5	12.8
0.9	1.4	0.9	1.1	0.9	1.1	0.9
33.7	33.0	33.8	34.5	30.1	33.1	33.3
3.6	2.6	2.8	3.0	3.2	2.9	3.0
22.1	23.1	19.0	23.0	23.8	21.9	22.3
3.6	3.5	3.9	3.2	3.2	3.5	3.1
3.6	0.8	1.2	1.4	4.2	2.1	0.9

分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
入学試験や就職試験に備えたい。
親や先生にほめられたい。
成績を上げたい。
先生や家族に言われるから勉強している。
特に考えていない。
その他
記入ミス・無答

- ・ の知的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて23.8%。
- ・ の進路に関する動機付けが1.4ポイント減少している。
- ・ ~ の学習に消極的な層が全体の約30%近くいる。

学ぶ楽しさを実感させ、学習への意欲を喚起し興味・関心を引き出す授業や教育活動への改善が望まれる。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19
6.2	6.4	7.3	5.1	6.4	6.4	6.6
32.0	36.5	37.5	32.2	35.5	35.2	34.4
45.9	42.7	41.8	47.0	41.3	43.5	43.1
10.8	11.5	10.3	12.2	10.7	11.1	12.1
2.7	2.5	2.1	2.4	3.1	2.5	2.9
2.4	0.4	1.0	1.1	3.0	1.3	0.9

ほとんどの授業がよく理解できる。
理解できる授業の方が多い。
理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
理解できない授業の方が多い。
ほとんどの授業が理解できない。
記入ミス・無答

- ・ だいたい理解できると回答した者は と を合わせて41.5%で、昨年と比べ0.5ポイント増加。
 - ・ あまり理解できないと回答した者は と を合わせて13.6%で昨年度と比べ1.4ポイント減少。
- 全体としては、授業がわかりやすいと感じている層が増え、理解できないと感じている層が減少している。分ける授業に向けての各学校での工夫・改善が見て取れる結果であり、引き続き、授業改善に向けて、果の施策のさらなる充実が求められている。

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
52.6	56.8	59.0	50.9	52.6	55.0	61.0	自分で調べる。
32.8	31.5	34.5	36.7	37.5	34.7	38.3	学校の先生に質問する。
69.2	71.1	71.6	73.0	71.4	71.5	70.9	友達に聞く。
15.9	20.8	19.8	19.4	15.7	18.8	20.0	家族に聞く。
12.2	14.6	15.3	12.2	12.5	13.7	15.9	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
20.4	23.3	20.5	23.7	22.1	22.1	24.2	そのまましておく。
4.6	3.6	4.1	6.0	5.1	4.6	6.9	その他

- ・ の「自分で調べると」回答した者は5.9ポイント減少。
 - ・ 最も多いのが「友達同士で解決する」場合で、「学校の先生に聞く」は3.4ポイント減少。
 - ・ 「そのままにしておく」と回答した者も1.9ポイント減少したが依然多い。
- 生徒の理解度を計画的にチェックすること、学び合いを取り入れた授業等の工夫が必要である。**

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	得意教科
22.9	18.9	20.0	20.0	22.3	20.5	18.5	国語
11.5	14.4	10.6	11.9	8.6	11.5	11.7	地理歴史
2.7	3.0	4.8	3.1	3.8	3.6	3.8	公民
17.1	20.3	23.2	19.1	22.1	20.8	21.1	数学
11.5	9.7	13.5	10.7	8.6	11.0	12.0	理科
12.4	16.7	14.4	14.4	13.0	14.4	14.7	英語
8.1	6.5	4.5	7.9	9.9	7.1	6.7	専門教科
11.2	9.5	7.8	11.8	9.8	9.8	9.9	その他
2.6	1.0	1.2	1.1	1.9	1.3	1.6	記入ミス・無答

- ・ 数学、国語、英語、地理歴史、理科の順番であり、国語が1.9ポイント増加、理科が1ポイント減少。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	不得意教科
6.1	11.4	13.7	9.4	9.1	10.6	11.0	国語
14.4	10.5	9.6	11.3	10.0	10.8	10.2	地理歴史
2.7	2.5	2.6	2.7	3.6	2.8	2.8	公民
27.9	31.6	31.0	29.6	25.9	29.6	30.3	数学
11.2	11.0	9.8	11.0	13.8	11.2	8.9	理科
28.3	26.8	27.9	28.0	30.9	28.2	29.1	英語
4.4	3.6	1.8	4.0	2.3	3.1	3.7	専門教科
1.8	1.4	2.3	2.4	1.9	2.0	2.0	その他
3.2	1.2	1.3	1.6	2.5	1.7	2.0	記入ミス・無答

- ・ 数学、英語、理科、地理歴史、国語の順番。
 - ・ 昨年度と比べ、理科と国語の順位が逆転し、理科を不得意とする回答の割合が増加。
 - ・ 数学、英語、国語を不得意とする回答が昨年度よりわずかに減少。
 - ・ 数学は昨年同様不得意が得意を上回っているが、理科についても不得意が得意を上回った。
- 数学又は英語を不得意と感じている生徒が約6割にのぼることから、それらの生徒に対し基礎的内容の学び直し及び学習習慣確立に向けての支援をする等の工夫が必要である。**

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
11.5	13.8	22.0	13.8	11.7	15.4	14.9	ほとんど毎日出ている。
37.3	36.5	31.5	35.1	28.2	33.4	36.2	週に2~3回出ている。
37.1	33.7	40.2	36.9	34.4	36.7	31.1	週に1回くらい出ている。
13.0	15.7	5.7	13.8	23.7	13.6	16.5	ほとんど出していない。
1.1	0.3	0.6	0.4	2.0	0.9	1.3	記入ミス・無答

- ・ ~ を合わせて、週あたり1回以上宿題・課題が出される割合が昨年度より3.1ポイント増。
- ・ ほとんど宿題が出されない割合は2.9ポイント減少。

Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。 H20に新設した質問

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
7.2	12.8	10.3	10.7	13.5	11.1		ほとんど毎日ある。
25.1	24.5	45.0	25.4	27.9	31.1		週に2~3回ある。
39.7	28.9	28.5	38.6	31.6	32.6		週に1回くらいある。
26.7	33.4	15.4	24.8	24.8	24.3		ほとんどない。
1.3	0.4	0.8	0.5	2.2	0.9		記入ミス・無答

- ・ 今年度新設した質問項目である。
- ・ ~ を合わせて、週あたり1回以上テストが実施される割合は74.6%。

Q9 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか、最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
34.4	36.4	32.8	38.0	34.1	35.1	36.5	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
4.1	7.3	8.7	5.9	5.2	6.6	6.5	発展的な内容まで教えてくれる授業
39.7	39.2	40.8	38.4	36.1	39.0	38.2	興味や関心がもてるような授業
13.3	13.0	13.4	11.6	13.4	12.9	13.1	進路希望達成につながる授業
7.0	3.8	3.5	5.7	8.4	5.3	4.8	資格取得につながる授業
1.5	0.3	0.8	0.4	2.8	1.1	0.9	記入ミス・無答

・ 昨年度同様、興味・関心がもてる授業を期待する声も最も高い。
 ・ 次いで基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる体制を望んでいる。
生徒の期待に応えるこれらの授業や体制を実現する授業改善や体制づくりに向けて、各校のさらなる取

Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
34.2	30.5	26.5	35.9	38.6	32.4	33.3	全く、またはほとんどしない。
12.8	11.8	11.4	12.2	11.5	11.9	13.1	30分より少ない。
15.9	17.5	19.3	17.1	14.4	17.2	16.2	30分～
24.1	23.3	27.8	23.2	20.8	24.2	23.5	1時間～
8.9	12.9	11.1	8.9	9.6	10.5	10.3	2時間～
1.5	3.1	2.6	1.7	2.1	2.3	2.1	3時間～
0.8	0.3	0.5	0.5	0.4	0.5	0.4	4時間～
0.5	0.3	0.2	0.2	0.4	0.3	0.3	5時間以上
1.3	0.3	0.6	0.3	2.2	0.7	0.8	記入ミス・無答

・ の平日に家庭学習をしない者が昨年度より1ポイント減少しているものの、32.3%と最も高い割合。
 ・ ~ の家庭学習にしっかり取り組んでいる層は今年度0.5ポイント増加。
 ・ ~ の合計は昨年度とほぼ同じであり、全体の85.2%は家庭学習時間が2時間未満。
家庭学習時間1時間以上の者は37.7% (昨年比1.1ポイント増) であるが、中学2年時点での調査(平成18年度宮城県学習状況調査)では、1時間以上の者が52.8%であったことを考えると、家庭学習定着のための意識付け及び学習時間増加に向けて、さらなる取組が望まれる。

Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
35.7	29.4	21.0	34.6	36.6	30.2	31.4	全く、またはほとんどしない。
10.1	8.9	7.1	11.5	10.1	9.3	10.4	30分より少ない。
11.7	11.8	11.2	12.0	10.5	11.4	11.4	30分～
17.3	17.2	22.9	19.1	17.1	19.2	18.5	1時間～
14.1	15.4	19.5	13.0	12.1	15.3	15.1	2時間～
6.7	9.2	9.8	6.6	6.6	8.0	7.8	3時間～
1.4	4.1	4.4	1.4	2.9	3.1	3.0	4時間～
1.2	2.2	1.9	0.7	0.9	1.4	1.1	5時間～
0.3	0.9	1.1	0.3	0.3	0.6	0.4	6時間～
0.3	0.5	0.5	0.3	0.4	0.4	0.3	7時間以上
1.2	0.4	0.6	0.5	2.5	1.1	0.6	記入ミス・無答

・ 休日に家庭学習をしない者が昨年度より1.4ポイント減少し、平日より低い割合。
 ・ 2時間以上の回答(~)が1.1ポイント増加、休日には家庭学習時間を増やしている者の割合が増加傾向にある。
週末課題等の工夫等、休日の家庭学習時間の増加に向けた取組が必要である。

Q12 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
11.5	17.5	19.7	14.1	12.7	15.8	14.1	ほぼ毎日している。
6.4	5.0	4.3	3.6	3.6	4.4	4.5	主に平日にしている。
6.4	5.4	8.4	6.3	5.7	6.6	6.8	主に休日にしている。
15.3	15.7	12.3	16.7	17.6	15.3	7.2	主に定期考査前にしている。
5.1	5.5	6.0	6.3	4.3	5.5	4.4	主に宿題・課題のあるときにしている。
24.9	25.5	25.6	24.3	23.1	24.8	36.0	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
2.0	1.5	1.7	1.3	1.1	1.5	1.5	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
14.7	13.1	12.5	14.3	14.8	13.7	13.3	気が向いたときにしている。
11.5	9.3	7.7	11.5	13.8	10.4	10.5	家庭学習はほとんどしない。
0.8	1.0	1.1	1.2	1.7	1.2	1.0	その他
1.4	0.5	0.7	0.4	1.6	0.8	0.7	記入ミス・無答

・ ほぼ毎日している割合が昨年度より1.7ポイント増加。
 ・ の定期考査前のみ家庭学習をすると答えた割合が8.1ポイント増加。
 ・ 家庭学習の習慣が身に付いていると考えられる の合計は20.2%であるが、依然として約8割の生徒には家庭学習の習慣化がみられない。
学校と家庭の連携、授業を中心とした学校の体制づくりを通じた、家庭学習の推進が望まれる。

Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
7.4	5.0	3.8	7.5	5.9	5.6	5.5	国語
5.9	4.5	4.2	6.7	5.1	5.1	5.1	地理歴史
1.8	1.0	1.9	1.6	2.6	1.7	1.5	公民
28.7	46.7	46.0	35.6	30.6	39.2	39.3	数学
6.8	4.0	4.8	5.2	5.5	5.1	5.0	理科
23.0	22.8	28.5	21.2	25.1	24.5	23.3	英語
14.6	7.1	2.8	10.2	11.0	8.1	9.1	専門教科
9.3	8.0	7.2	11.5	12.1	9.4	9.4	その他
2.5	0.9	0.8	0.5	2.1	1.3	1.8	記入ミス・無答

- ・昨年同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。
- ・一方で、Q6の不得意教科は、数学、英語という回答が最も多い。

Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
16.8	12.9	13.0	16.1	15.1	14.4	13.7	家庭学習の方法が分からない。
22.2	27.9	29.6	24.7	24.0	26.4	25.2	家庭学習に集中できない。
15.9	13.9	13.9	15.5	14.0	14.5	14.5	学習の計画を立てても長続きしない。
18.9	19.6	19.9	17.8	16.2	18.6	21.2	家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.3	7.2	6.3	6.1	7.1	6.6	5.9	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.8	4.0	4.2	3.1	3.3	3.7	3.5	その他
14.6	14.0	12.2	16.4	18.2	14.8	15.0	特に悩みはない。
1.5	0.5	0.9	0.3	2.1	1.0	1.0	記入ミス・無答

- ・8割以上の者が何らかの悩みを抱えていることがわかる。
- ・中でも「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」とする者の割合が高い。
- ・「家庭学習の方法が分からない」者が昨年度より0.7ポイント増加となっている。
- ・昨年度も同様の結果であったが、集中を阻害する要因を探りながら家庭学習に集中できる環境づくりを保護者に考えてもらうよう、家庭との連携を進めていく必要がある。「学習の計画を立てても長続きしない」、「家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない」にも大きく関わるものと考えられる。授業や学習カウンセリング等を通して、具体的な学習方法について指導する必要がある。

Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
69.8	75.7	77.7	73.0	69.9	74.0	71.6	必ずとる。
16.2	14.0	12.5	15.9	15.7	14.5	15.4	たいていとる。
7.2	5.1	5.4	5.5	7.3	5.9	6.2	とらないことが多い。
5.3	4.6	3.9	5.3	5.8	4.9	5.0	全く、または、ほとんどとらない。
1.5	0.6	0.5	0.3	1.3	0.7	1.8	記入ミス・無答

- ・学校に行く前に朝食を必ず又はたいていとる者が88.3%で、1.3ポイント増加している。
- ・きちんと朝食をとる習慣のない者の割合は10.7%で、0.5ポイント減少している。

Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
4.4	7.8	8.2	5.0	4.4	6.3	5.5	家庭学習
26.2	22.9	23.6	26.2	23.9	24.3	23.9	テレビやビデオ
13.0	12.2	12.4	10.5	13.1	12.1	10.7	ゲームやパソコン
19.3	17.4	16.3	24.9	21.9	19.7	22.0	電話やメール
3.1	3.1	4.1	3.2	3.7	3.5	3.9	読書
16.9	16.9	16.0	15.5	16.9	16.4	16.5	自分の趣味(, を除く)
3.9	4.5	4.4	3.0	3.3	3.9	3.7	家族との会話
2.0	1.1	1.1	1.8	1.4	1.4	1.2	手伝い
9.6	13.2	13.1	9.1	8.9	11.1	10.7	その他
1.6	0.9	0.8	0.8	2.5	1.3	1.9	記入ミス・無答

- ・「テレビやビデオ」、「ゲームやパソコン」、「電話やメール」、「自分の趣味」の時間が多く、この3項目を合わせると72%で、Q13の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。
- ・「電話やメール」の割合は、昨年度より2.4ポイント減少。
- ・「家庭学習」が0.8ポイント増加。
- ・家庭での携帯電話の使用については、家庭で考えてもらうよう学校からの呼びかけ等が必要である。

Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
6.0	7.7	7.8	6.0	5.9	6.9	6.6	全く、またはほとんど見ない。
4.3	7.5	7.6	5.2	5.5	6.3	5.6	30分より少ない。
9.0	11.5	12.2	8.3	7.3	10.0	10.2	30分～
22.3	26.9	27.2	23.0	21.4	24.7	24.3	1時間～
27.0	23.1	22.8	24.0	23.7	23.8	24.3	2時間～
16.2	13.1	12.7	17.5	17.3	15.0	15.4	3時間～
7.5	5.7	5.0	8.8	8.6	6.9	7.0	4時間～
5.7	3.9	3.8	6.6	8.0	5.4	5.5	5時間以上
2.0	0.6	0.9	0.6	2.3	1.0	1.1	記入ミス・無答

- ・3時間以上見ている者は27.3%であり、中でも約8人に1人は4時間以上見ている。
- ・テレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」理由の一つになっていると考えられる。

Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
39.1	41.8	40.1	44.4	41.6	41.5	45.3	全く、またはほとんどしない。
11.5	13.0	14.1	12.4	10.9	12.6	12.2	30分より少ない。
11.3	13.1	14.0	11.8	9.8	12.3	11.6	30分～
18.6	16.4	16.6	14.7	15.7	16.2	15.3	1時間～
9.8	8.4	8.0	9.2	10.2	8.9	7.8	2時間～
3.6	3.5	3.4	3.4	4.8	3.7	3.6	3時間～
2.0	1.6	1.4	1.2	1.6	1.5	1.6	4時間～
2.9	1.9	1.8	2.4	2.7	2.2	1.6	5時間以上
1.2	0.3	0.6	0.5	2.7	1.1	1.0	記入ミス・無答

・「テレビやビデオ」に比べて、平日にゲームを行っている者は少なく、「全く、またはほとんどしない」、「30分より少ない」を合わせると約5割強である。

Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
13.4	14.6	14.8	13.9	12.9	14.1	13.1	全く、またはほとんどしない。
20.2	24.3	24.4	18.1	17.3	21.3	19.3	30分より少ない。
14.2	16.4	18.5	13.6	14.0	15.7	15.0	30分～
16.0	16.7	15.2	16.2	15.9	15.9	16.8	1時間～
12.8	10.4	10.2	12.7	12.4	11.5	12.0	2時間～
9.5	7.6	6.9	10.6	9.7	8.6	9.2	3時間～
5.1	3.7	3.6	4.8	5.2	4.3	4.7	4時間～
6.5	6.0	5.6	9.3	9.9	7.3	8.7	5時間以上
2.3	0.3	0.8	0.8	2.7	1.3	1.2	記入ミス・無答

・1時間以上電話やメールを行っている者は、47.4%で、昨年度から4ポイント減少。
 ・3時間以上の者は、20.2%にもなっており、「家庭学習に集中できない」大きな要因になっている。

Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
57.1	59.4	55.1	54.0	54.5	55.9	55.3	全く、またはほとんどしない。
16.2	16.8	19.1	21.9	16.8	18.5	18.0	30分より少ない。
11.2	11.7	12.2	11.2	11.3	11.6	12.0	30分～
7.5	6.7	8.0	6.9	8.4	7.5	7.9	1時間～
3.5	2.7	2.5	2.8	3.0	2.8	3.3	2時間～
1.7	1.2	1.4	1.6	2.0	1.5	1.5	3時間～
0.4	0.3	0.4	0.4	1.0	0.5	0.5	4時間～
0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	5時間以上
1.6	0.5	0.6	0.5	2.3	1.0	0.9	記入ミス・無答

・半数以上の者が「全く、またはほとんどしない」状況で、平日の読書はあまり習慣化されていない。
 ・1時間以上読書する者は12.9%である。
朝読書を取り入れている学校が増加しているものの、読書の楽しさ等を伝える努力とともに、家庭や学校において習慣化を図る工夫が望まれる。

Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
2.3	5.8	6.7	2.6	3.0	4.5	3.9	家庭学習
21.2	18.3	17.8	20.8	18.6	19.1	19.7	テレビやビデオ
16.2	15.2	16.0	13.8	15.3	15.3	13.1	ゲームやパソコン H18 ゲーム
11.9	9.4	9.0	16.1	14.9	12.0	13.9	電話やメール
2.2	2.8	2.9	2.5	2.6	2.6	2.6	読書
23.7	24.2	24.6	22.0	21.7	23.3	23.6	自分の趣味
2.5	3.2	2.6	2.1	2.7	2.6	2.5	家族との対話
2.6	1.5	1.1	2.6	2.5	1.9	1.6	手伝い
15.5	18.8	18.4	16.8	15.5	17.3	16.2	その他
1.9	0.8	0.9	0.7	3.2	1.4	2.9	記入ミス・無答

・「自分の趣味」の割合が高くなっており、次いで「テレビやビデオ」の順となっている。
 ・「電話やメール」の割合は、平日と比べると低くなっている。

Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
3.8	4.7	5.0	4.1	4.5	4.5	4.5	全く、またはほとんど見ない。
2.7	2.8	3.8	2.6	2.6	3.0	2.8	30分より少ない。
3.2	5.1	5.3	3.9	4.2	4.5	4.5	30分～
11.4	14.9	15.5	11.3	10.4	13.1	12.9	1時間～
17.8	22.7	22.6	19.3	16.7	20.3	19.9	2時間～
21.9	19.7	19.8	18.7	19.5	19.7	18.8	3時間～
13.1	12.3	10.9	13.8	13.4	12.5	13.1	4時間～
10.3	8.5	8.3	11.1	11.9	9.8	10.3	5時間～
5.2	3.5	3.4	5.7	5.3	4.4	4.7	6時間～
8.3	5.4	4.7	8.6	8.7	6.8	7.2	7時間以上
2.3	0.4	0.7	0.9	2.8	1.4	1.3	記入ミス・無答

- ・3時間以上見ている者は52.9%と半数を超えている。
- ・約8人に1人は6時間以上もテレビやビデオを見ている。
- ・「家庭学習に集中できない」大きな理由となっていると考えられる。

Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
31.5	32.6	30.6	37.3	34.9	33.3	36.3	全く、またはほとんどしない。
8.8	9.8	11.7	9.7	7.9	9.9	9.9	30分より少ない。
7.5	9.5	10.0	8.5	7.3	8.8	8.5	30分～
16.5	16.8	17.6	14.6	13.7	16.0	15.2	1時間～
13.6	13.2	13.1	12.0	13.2	13.0	12.2	2時間～
8.1	7.6	7.8	7.3	8.8	7.8	7.5	3時間～
4.2	3.9	2.7	2.7	3.9	3.3	3.5	4時間～
4.1	2.0	2.3	2.6	3.1	2.6	2.5	5時間～
1.0	1.0	1.3	1.0	1.5	1.2	0.9	6時間～
3.2	3.0	2.4	3.3	3.8	3.0	2.3	7時間以上
1.5	0.6	0.5	1.0	1.9	1.1	1.2	記入ミス・無答

- ・休日でもゲームやパソコンをほとんどしないのは33.2%で、昨年度より3.1ポイント減少している。
- ・ゲームやパソコンを行っている者については、平日と同様に1時間以上2時間未満の者が16%と最も高い。

Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
12.9	13.4	13.9	12.2	11.5	12.9	11.6	全く、またはほとんどしない。
16.7	20.1	19.8	14.4	14.5	17.4	15.8	30分より少ない。
11.6	14.3	16.7	11.9	12.6	13.8	12.5	30分～
13.7	15.7	14.9	14.3	13.2	14.5	15.5	1時間～
12.6	11.4	11.0	13.2	12.8	12.0	12.0	2時間～
9.9	8.9	7.9	10.5	10.6	9.4	10.0	3時間～
6.0	4.5	4.8	6.0	6.1	5.4	6.0	4時間～
6.2	3.6	3.5	5.8	5.9	4.7	5.4	5時間～
2.5	2.0	1.9	2.2	3.0	2.2	2.4	6時間～
5.9	5.1	4.8	8.7	7.8	6.3	7.3	7時間以上
2.0	1.0	0.8	0.8	2.0	1.4	1.5	記入ミス・無答

- ・8.5%の者が1日6時間以上もの長い時間を電話やメールで過ごしている。
- ・30分より少ないと答えた者が最も多く17.4%となっている。
- 長時間の電話やメールに対して早急に対策を講じる必要があると思われる。

Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H19	
57.9	58.0	55.9	60.3	55.6	57.5	56.0	全く、またはほとんどしない。
12.6	13.6	14.6	14.3	13.1	13.8	13.2	30分より少ない。
10.4	10.3	10.3	8.0	9.5	9.7	9.9	30分～
8.6	8.9	9.4	8.7	8.8	9.0	9.9	1時間～
4.4	4.7	5.3	4.1	5.3	4.8	5.2	2時間～
2.2	2.0	2.3	2.1	2.5	2.2	2.3	3時間～
1.0	0.9	0.6	0.9	0.8	0.8	1.0	4時間～
0.8	0.6	0.5	0.7	1.0	0.7	0.7	5時間～
0.3	0.2	0.1	0.1	0.5	0.2	0.3	6時間～
0.7	0.5	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	7時間以上
1.1	0.3	0.5	0.3	2.3	0.8	1.0	記入ミス・無答

- ・30分以内の者が約7割となっており、平日と同様に高い割合になっている。
- ・1時間以上の者は18.2%と平日より5.3ポイント増えているものの、読書の習慣が身に付いているとはいえない。

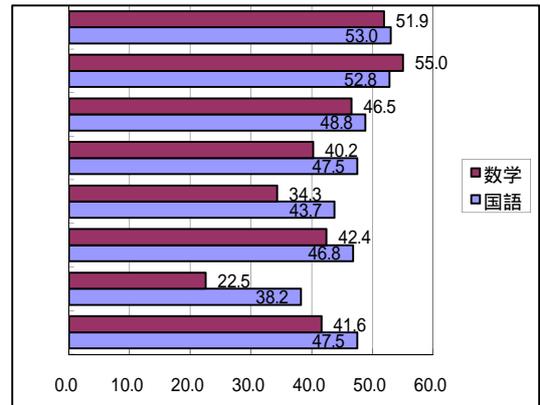
まとめ

- ・ Q 1 の高校卒業後の進路として 4 年制国立大学，4 年制私立大学希望者が 44.2% であるのに、Q 1 0 平日の家庭学習時間について、2 時間以上実施している者の割合は 13.6% にとどまっている。
 - ・ Q 2 の進路希望の達成についての考えで、「卒業までに絶対達成しようと考えている」者が 5 割を超え、一方で「卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている」者が昨年同様 2 割を超えていることがあげられる。
 - ・ 進路に対する強い意志をもつ者が 5 割を超え、高い進路意識を持つ者が認められるものの、一方で進路に対してのこだわりが弱い層の割合が 2 割を超えた状態で固定化し、自分なりの確固たる意識や目標を持たない傾向が出てきつつあるとも考えられる。また、このような進路意識が、普段の学習に対する考えや姿勢に表れているようである。それは Q 3 の「どんな気持ちで勉強しているか」という問いに対して、「特に考えていない」者の割合が 21.7% であることや、Q 9 や Q 1 0 の「家庭学習を全く、またはほとんどしない」者の割合が 30% を超えていることから窺える。
- 学ぶことの楽しさを味わわせるとともに、進路指導においては単にその意識を持たせるだけでなく、自分の将来について具体的に考えさせるなどのさらに踏み込んだ指導が必要と思われる。**
- ・ 授業に対しては、「理解できない授業が半分以上」という者の割合が約 6 割となっている。
 - ・ 「授業で分からないことがあってもそのままにしておく」者が増加し 22.3% もいる。
 - ・ 生徒は、「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」「興味や関心をもてるような授業」を期待していることから、基礎・基本でつまずいたまま、学習に対する意欲を失ってしまう者も少なからずいると思われる。
- 確固たる進路意識や学習に対する前向きな姿勢を育てるためにも、学校においては、生徒の期待に応える魅力ある授業実践を目指して工夫・改善に努める必要がある。**
- ・ 家庭学習の状況を見てみると、学習時間については年々増加してはいるが、残念ながら多くの生徒がまだまだ不十分と思われる。家庭学習に集中できない要因として、テレビやビデオ、電話やメールなどあげられる。
- 特に、入学時からの家庭学習習慣の定着化に向けた工夫と、家庭での学習環境の整備について学校からの呼びかけが必要である。**
- 以上のことから、高い進路意識とそれに基づく学習に対する姿勢を育てることが、なお一層求められる。家庭学習も含めて、学習環境の整備をさらに推進し、生徒の学力の向上に結びつけたい。それには学校と家庭との連携を一層深めた教育の実践が不可欠であり、学校においては、分かる授業、興味関心を持てる授業、学習意識の向上につながる授業等、生徒へのきめ細やかな対応と指導及び家庭学習習慣の定着に向けた工夫が求められている。

平成20年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査回答別正答率(国語・数学)(1学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

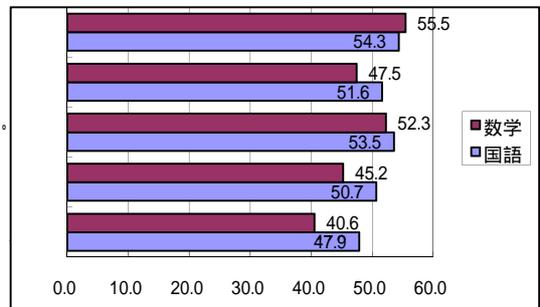
生徒の割合	進路
33.1	4年制国公立大学
11.2	4年制私立大学
3.6	短期大学
15.8	専修学校・各種学校
16.2	民間就職
2.9	公務員就職
0.3	家業
13.9	未定
2.0	その他
1.0	記入ミス・無答



グラフの数値は、数学及び国語の正答率

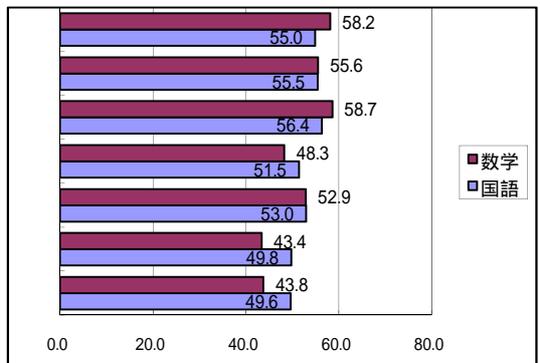
Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

生徒の割合	考え方
50.1	卒業までに絶対達成しようと思っている。
10.4	達成するまで、卒業後1,2年かかってかまわないと思っている。
21.6	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
10.9	何とかなるだろうと思っている。
5.6	あまり考えないようにしている。
1.4	記入ミス・無答



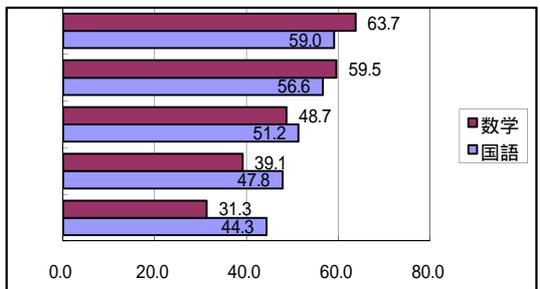
Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

生徒の割合	気持ち
11.2	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
12.7	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
11.5	入学試験や就職試験に備えたい。
1.1	親や先生にほめられたい。
33.1	成績を上げたい。
2.9	先生や家族に言われるから勉強している。
21.9	特に考えていない。
3.5	その他
2.1	記入ミス・無答



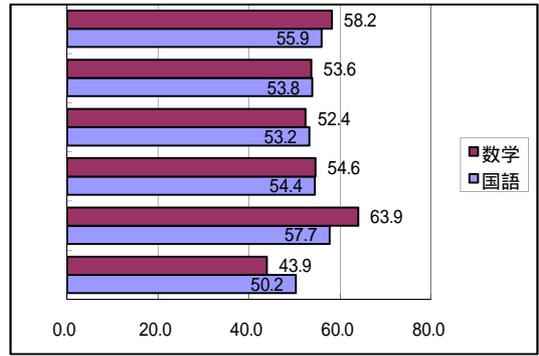
Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

生徒の割合	理解度
6.4	ほとんどの授業がよく理解できる。
35.2	理解できる授業の方が多い。
43.5	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
11.1	理解できない授業の方が多い。
2.5	ほとんどの授業が理解できない。
1.3	記入ミス・無答



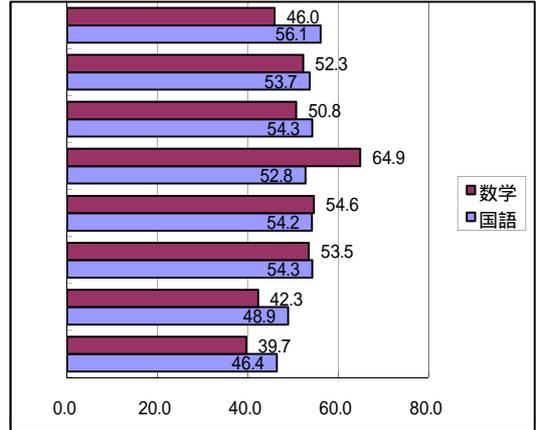
Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

生徒の割合	回答
55.0	自分で調べる。
34.7	学校の先生に質問する。
71.5	友達に聞く。
18.8	家族に聞く。
13.7	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
22.1	そのまましておく。
4.6	その他

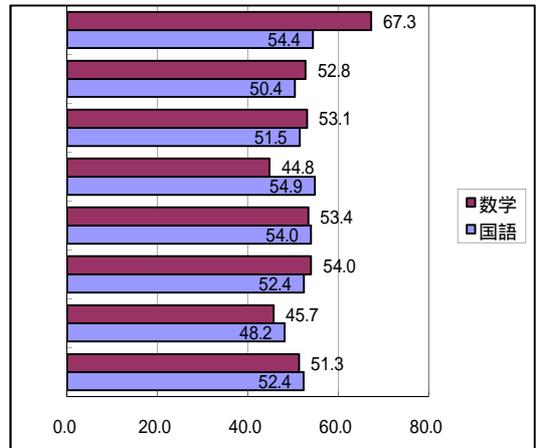


Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

生徒の割合	得意教科
20.5	国語
11.5	地理歴史
3.6	公民
20.8	数学
11.0	理科
14.4	英語
7.1	専門教科
9.8	その他
1.3	記入ミス・無答

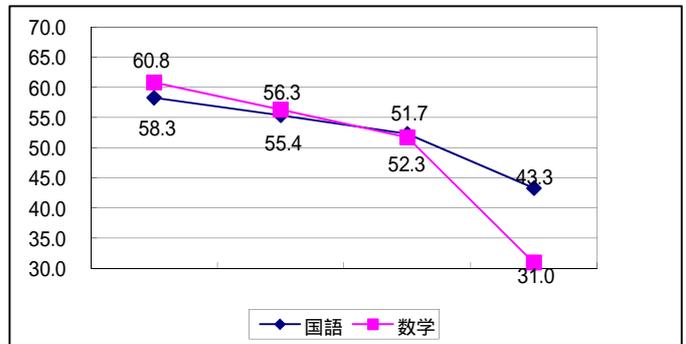


生徒の割合	不得意教科
10.6	国語
10.8	地理歴史
2.8	公民
29.6	数学
11.2	理科
28.2	英語
3.1	専門教科
2.0	その他
1.7	記入ミス・無答



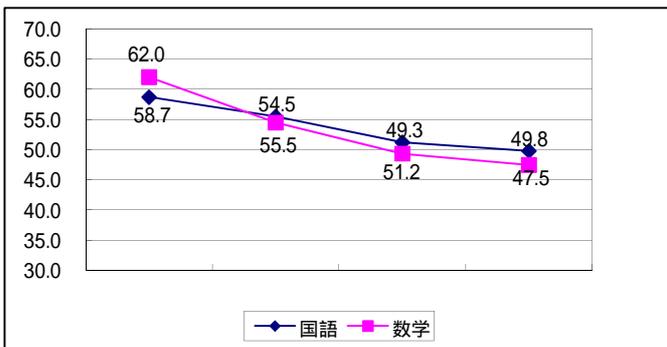
Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

生徒の割合	回答
15.4	ほとんど毎日出ている。
33.4	週に2~3回出ている。
36.7	週に1回くらい出ている。
13.6	ほとんど出していない。
0.9	記入ミス・無答



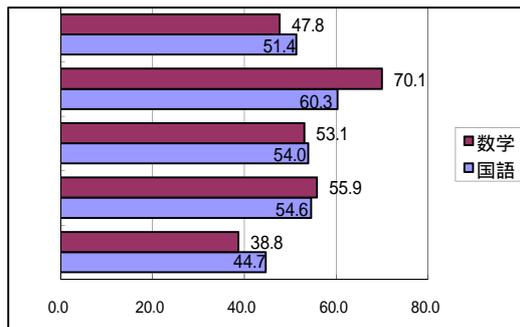
Q8 学校ではどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストも含む。)がありますか。 H20新設した質問

- 生徒の割合
- 11.1 ほとんど毎日ある。
 - 31.1 週に2～3回ある。
 - 32.6 週に1回くらいある。
 - 24.3 ほとんどない。
 - 0.9 記入ミス・無答



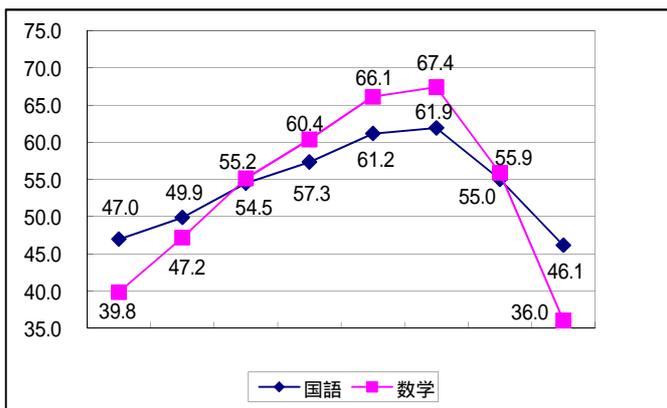
Q9 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

- 生徒の割合
- 35.1 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
 - 6.6 発展的な内容まで教えてくれる授業
 - 39.0 興味や関心をもてるような授業
 - 12.9 進路希望達成につながる授業
 - 5.3 資格取得につながる授業
 - 1.1 記入ミス・無答



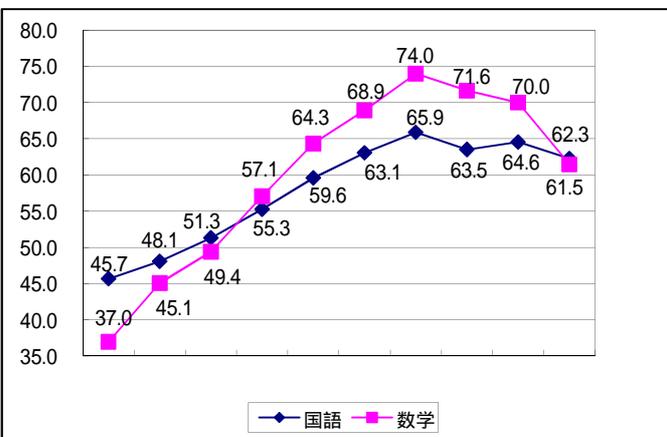
Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

- 生徒の割合
- 32.4 全く、またはほとんどしない。
 - 11.9 30分より少ない。
 - 17.2 30分～
 - 24.2 1時間～
 - 10.5 2時間～
 - 2.3 3時間～
 - 0.5 4時間～
 - 0.3 5時間以上
 - 0.7 記入ミス・無答



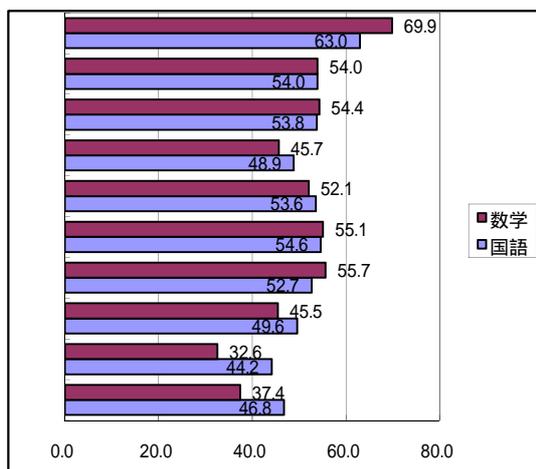
Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

- 生徒の割合
- 30.2 全く、またはほとんどしない。
 - 9.3 30分より少ない。
 - 11.4 30分～
 - 19.2 1時間～
 - 15.3 2時間～
 - 8.0 3時間～
 - 3.1 4時間～
 - 1.4 5時間～
 - 0.6 6時間～
 - 0.4 7時間以上
 - 1.1 記入ミス・無答



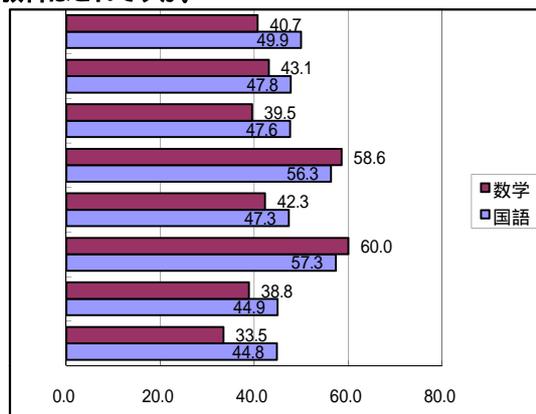
Q12 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

生徒の割合	回答
15.8	ほぼ毎日している。
4.4	主に平日にしている。
6.6	主に休日にしている。
15.3	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
5.5	主に宿題・課題のあるときにしている。
24.8	主に定期考査前にしている。
1.5	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
13.7	気が向いたときにしている。
10.4	家庭学習はほとんどしない。
1.2	その他
0.8	記入ミス・無答



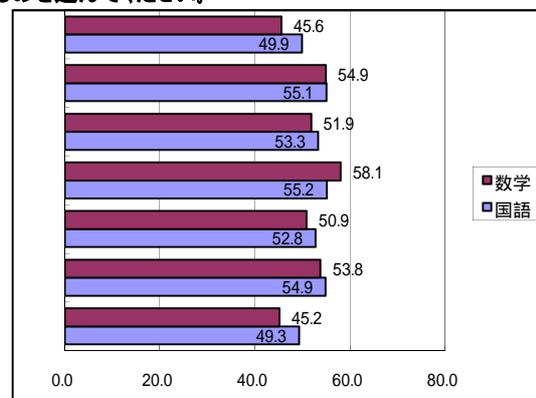
Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

生徒の割合	教科
5.6	国語
5.1	地理歴史
1.7	公民
39.2	数学
5.1	理科
24.5	英語
8.1	専門教科
9.4	その他
1.3	記入ミス・無答



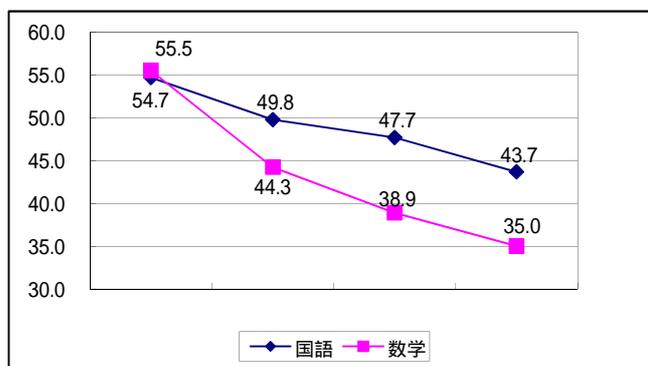
Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

生徒の割合	悩んでいること
14.4	家庭学習の方法が分からない。
26.4	家庭学習に集中できない。
14.5	学習の計画を立てても長続きしない。
18.6	家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.6	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.7	その他
14.8	特に悩みはない。
1.0	記入ミス・無答



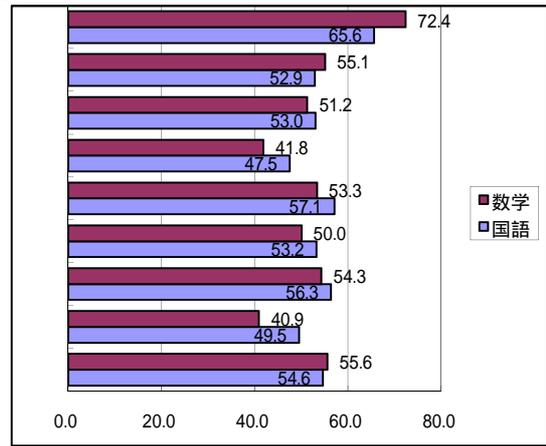
Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

生徒の割合	回答
74.0	必ずとる。
14.5	たいていとる。
5.9	とらないことが多い。
4.9	全く、または、ほとんどとらない。
0.7	記入ミス・無答



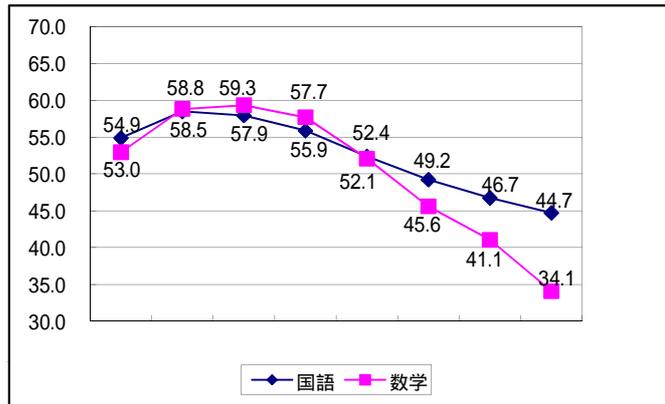
Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

生徒の割合	活動
6.3	家庭学習
24.3	テレビやビデオ
12.1	ゲームやパソコン H18 ゲーム
19.7	電話やメール
3.5	読書
16.4	自分の趣味(, を除く)
3.9	家族との会話
1.4	手伝い
11.1	その他
1.3	記入ミス・無答



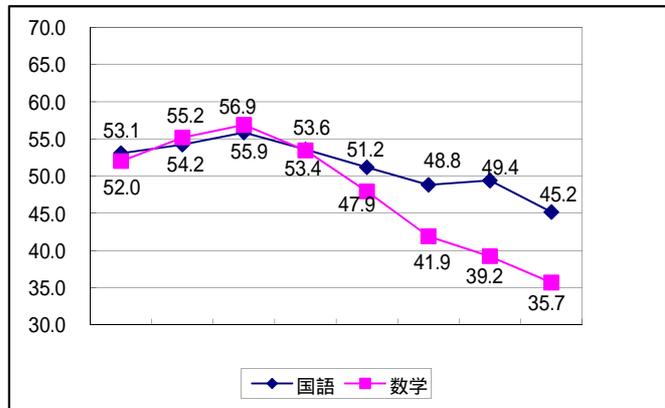
Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

生徒の割合	時間
6.9	全く、またはほとんど見ない。
6.3	30分より少ない。
10.0	30分～
24.7	1時間～
23.8	2時間～
15.0	3時間～
6.9	4時間～
5.4	5時間以上
1.0	記入ミス・無答



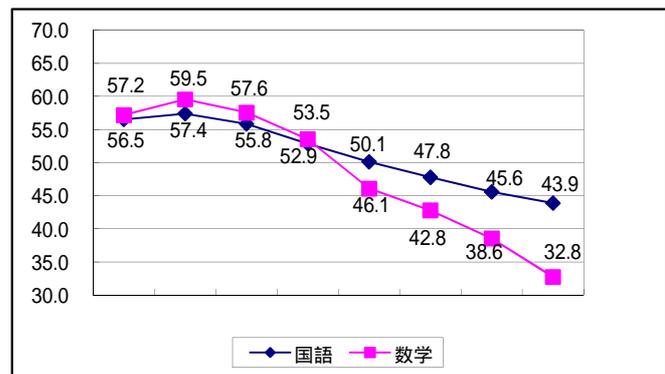
Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

生徒の割合	H18は「ゲームをしますか」
41.5	全く、またはほとんどしない。
12.6	30分より少ない。
12.3	30分～
16.2	1時間～
8.9	2時間～
3.7	3時間～
1.5	4時間～
2.2	5時間以上
1.1	記入ミス・無答



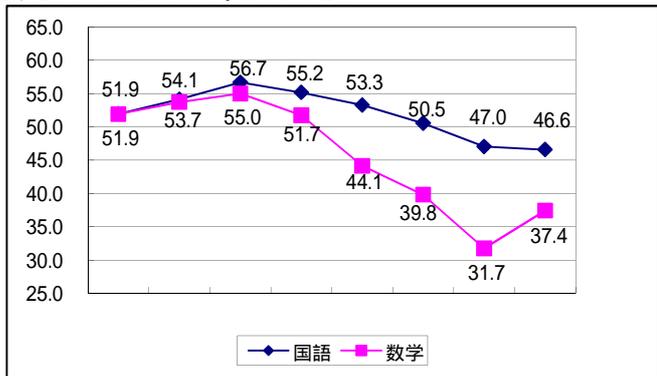
Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

生徒の割合	時間
14.1	全く、またはほとんどしない。
21.3	30分より少ない。
15.7	30分～
15.9	1時間～
11.5	2時間～
8.6	3時間～
4.3	4時間～
7.3	5時間以上
1.3	記入ミス・無答



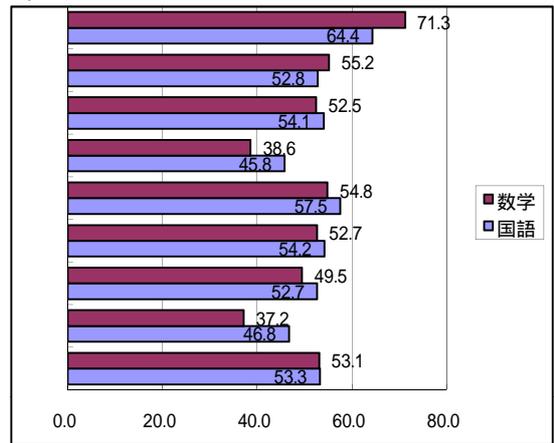
Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

生徒の割合	
55.9	全く、またはほとんどしない。
18.5	30分より少ない。
11.6	30分～
7.5	1時間～
2.8	2時間～
1.5	3時間～
0.5	4時間～
0.7	5時間以上
1.0	記入ミス・無答



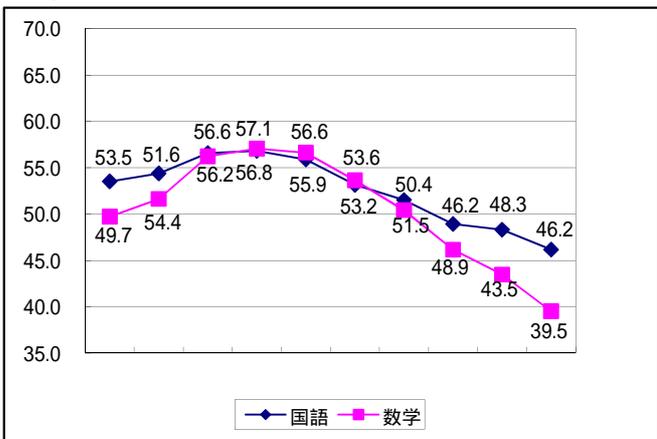
Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

生徒の割合	
4.5	家庭学習
19.1	テレビやビデオ
15.3	ゲームやパソコン H18 ゲーム
12.0	電話やメール
2.6	読書
23.3	自分の趣味
2.6	家族との対話
1.9	手伝い
17.3	その他
1.4	記入ミス・無答



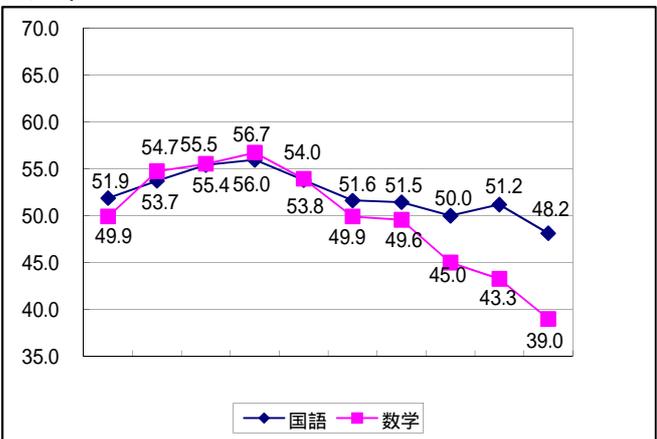
Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

生徒の割合	
4.5	全く、またはほとんど見ない。
3.0	30分より少ない。
4.5	30分～
13.1	1時間～
20.3	2時間～
19.7	3時間～
12.5	4時間～
9.8	5時間～
4.4	6時間～
6.8	7時間以上
1.4	記入ミス・無答



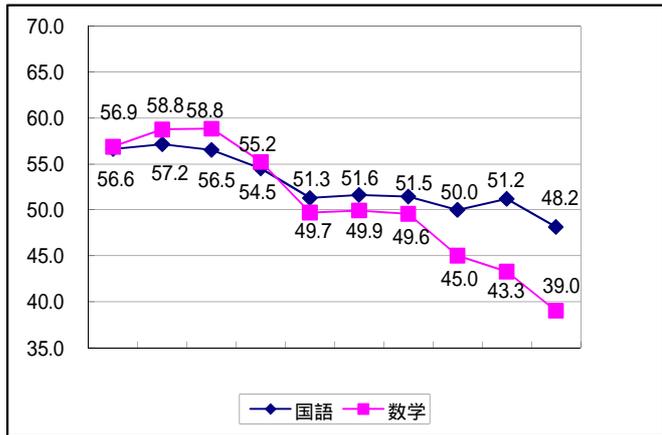
Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

生徒の割合	
33.3	全く、またはほとんどしない。
9.9	30分より少ない。
8.8	30分～
16.0	1時間～
13.0	2時間～
7.8	3時間～
3.3	4時間～
2.6	5時間～
1.2	6時間～
3.0	7時間以上
1.1	記入ミス・無答



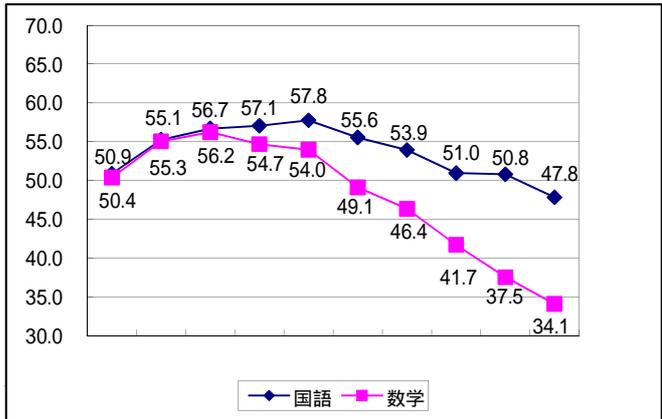
Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

生徒の割合	
12.9	全く、またはほとんどしない。
17.4	30分より少ない。
13.8	30分～
14.5	1時間～
12.0	2時間～
9.4	3時間～
5.4	4時間～
4.7	5時間～
2.2	6時間～
6.3	7時間以上
1.4	記入ミス・無答



Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書,漫画や雑誌は除く。)をしますか。

生徒の割合	
57.5	全く、またはほとんどしない。
13.8	30分より少ない。
9.7	30分～
9.0	1時間～
4.8	2時間～
2.2	3時間～
0.8	4時間～
0.7	5時間～
0.2	6時間～
0.5	7時間以上
0.8	記入ミス・無答



平成20年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(2学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
16.0	36.2	46.4	18.6	21.1	30.1	31.5	28.7	4年制国立大学
15.5	23.0	21.9	13.6	11.7	17.8	11.6	17.2	4年制私立大学
2.7	2.9	3.0	3.9	2.2	3.0	3.3	3.3	短期大学
15.8	14.7	11.5	17.2	16.9	14.9	16.6	15.7	専修学校・各種学校
35.5	13.3	9.5	31.8	26.4	21.1	17.2	22.1	民間就職
3.4	1.6	2.2	4.1	4.3	3.0	3.7	3.1	公務員就職
0.1	0.1	0.1	0.4	0.3	0.2	0.3	0.2	家業
6.5	6.8	4.1	7.8	9.0	6.7	13.2	7.7	未定
3.1	1.3	1.1	1.4	1.4	1.5	2.0	1.2	その他
1.4	0.1	0.2	1.2	6.7	1.7	0.6	0.8	記入ミス・無答

- ・進学希望者(～)は65.8%で、1年次と比べ2.8ポイント増加。
 - ・4年制大学・短大への進学希望者(～)は50.9%で、1年次と比べ4.5ポイント増加。
 - ・就職希望者(～)は24.3%で、1年次と比べ3.1ポイント増加。
 - ・の未定とその他を選択した者合わせて8.2%で、1年次と比べ7ポイント減少。
 - ・大学進学希望が就職希望に偏り、専修・各種学校への進学希望と未定が減少。卒業後の進路希望がより具体化
- 進路指導、個人面談、キャリア教育等の充実による進路希望へのサポート、未定者へのアドバイスが行われた結果が未定者の減少につながっていると思われるが、継続した指導が必要と考えられる。**

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
57.4	58.8	64.1	57.1	52.2	58.5	51.0	56.9	卒業までに絶対達成しようと思っている。
7.4	7.7	7.7	8.3	9.0	8.0	11.0	9.1	達成するまで、卒業後1,2年かかってもかまわないと思っている。
19.3	19.8	16.6	19.2	17.4	18.3	21.1	18.7	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
9.6	10.1	8.6	9.9	10.6	9.7	10.7	10.5	何とかなるだろうと思っている。
5.2	3.3	2.8	4.1	4.4	3.7	5.4	4.1	あまり考えないようにしている。
1.1	0.3	0.2	1.4	6.4	1.8	0.8	0.7	記入ミス・無答

- ・進路の達成に向けては、1年次よりも「卒業までに絶対達成しようと考えている者」が7.5ポイントも増加。
 - ・のような進路意識の希薄な層が2.7%減少して、進路に対しての強いこだわりが表れてきている。
- 今後は、進路に対する強い意志をもつ者がさらに増加するよう、進路指導の充実が求められる。**

Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
9.9	8.9	11.1	9.1	9.3	9.7	11.2	9.5	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
15.8	13.8	13.9	12.5	12.8	13.6	12.5	13.4	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
13.8	17.3	18.2	13.9	15.5	16.1	12.8	15.7	入学試験や就職試験に備えたい。
0.7	0.8	0.9	0.8	0.8	0.8	0.9	0.7	親や先生にほめられたい。
31.2	32.6	33.4	33.6	26.6	31.7	33.3	32.5	成績を上げたい。
2.6	2.1	2.0	2.3	2.0	2.2	3.0	2.5	先生や家族に言われるから勉強している。
21.1	20.4	16.8	23.8	22.0	20.5	22.3	21.9	特に考えていない。
2.2	3.3	2.7	2.1	2.8	2.6	3.1	2.7	その他
2.7	0.8	1.0	1.9	8.2	2.8	0.9	1.1	記入ミス・無答

- ・1年次同様、の成績向上を意識して勉強している者が31.7%と高い。
- ・の知的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて23.3%。
- ・の進路を意識して勉強している層が3.3ポイント増加。
- ・の学習に消極的な層は全体の約25%で、1年次よりは3.1ポイント減少している。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
8.3	7.8	8.8	4.9	7.1	7.4	6.6	7.5	ほとんどの授業がよく理解できる。
32.3	39.0	41.1	31.5	34.8	36.4	34.4	34.0	理解できる授業の方が多い。
43.3	40.1	38.7	46.2	38.6	41.1	43.1	41.7	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
11.8	9.7	8.9	12.3	10.3	10.4	12.1	12.7	理解できない授業の方が多い。
2.7	2.6	1.8	3.5	3.1	2.7	2.9	3.1	ほとんどの授業が理解できない。
1.6	0.8	0.7	1.6	6.1	2.0	0.9	1.0	記入ミス・無答

- ・だいたい理解できると回答した者はとを合わせて43.8%で1年次と比べ2.8ポイント増加。昨年に比べ2.3ポイント増加。
- ・あまり理解できないと回答した者はとを合わせて13.1%で1年次と比べ1.9ポイント減少。昨年に比べ2.7ポイント減少。
- ・の理解できる授業と理解できない授業が半々という層も減少しており、全体としては、授業がわかりやすいと感じている層が増えている。

学年進行に従って分かる授業に向けての各学校での工夫・改善が見て取れる結果であり、引き続き授業改善に向けて、

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
50.1	58.0	60.2	50.3	53.0	55.2	61.0	61.1	自分で調べる。
38.0	35.1	36.8	38.8	40.9	37.7	38.3	40.2	学校の先生に質問する。
70.4	69.9	69.9	70.0	67.7	69.6	70.9	69.4	友達に聞く。
11.5	14.4	13.4	10.8	11.1	12.4	20.0	13.7	家族に聞く。
8.9	13.6	14.8	12.0	10.2	12.4	15.9	12.9	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
20.8	19.9	17.0	23.7	21.7	20.3	24.2	23.6	そのまましておく。
5.0	4.5	2.9	4.6	4.4	4.1	6.9	5.6	その他

・ ~ は主に学校内で解決を図るものであるが、そのうち最も多いのが「友達同士で解決する」場合である。
 ・ 2番目の「自分で調べる」は1年次よりも5.8ポイント減少。
「そのままにしておく」と回答した者は3.9ポイント減少しているが、全体の約2割を占めており、生徒の理解度を計画的にチェックする等の教員の工夫が必要である。

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	得意教科
19.7	22.2	19.6	20.0	19.1	20.2	18.5	19.9	国語
10.8	14.9	14.9	10.4	15.4	13.6	11.7	12.5	地理歴史
1.4	2.4	2.9	2.9	1.3	2.3	3.8	2.4	公民
19.3	21.3	22.7	20.6	18.8	20.8	21.1	20.9	数学
9.3	7.9	8.9	8.1	8.1	8.4	12.0	8.5	理科
12.8	15.6	16.7	15.6	13.1	15.1	14.7	14.9	英語
13.5	6.1	4.5	8.5	11.2	8.0	6.7	8.3	専門教科
12.0	8.8	8.8	12.0	11.0	10.2	9.9	11.1	その他
1.2	0.8	1.0	1.9	2.0	1.4	1.6	1.5	記入ミス・無答

・ 数学、国語、英語、地理歴史、理科の順番。
 ・ 1年次と比べると、理科と地理歴史の順位が逆転し、理科を得意とする回答の割合が減少している。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	不得意教科
9.9	12.9	15.3	10.1	9.8	12.0	11.0	11.6	国語
10.8	12.0	9.7	11.1	10.4	10.8	10.2	11.7	地理歴史
1.7	1.5	2.0	2.0	2.6	2.0	2.8	1.7	公民
31.1	30.2	31.1	30.0	30.8	30.6	30.3	30.9	数学
7.0	10.3	10.7	12.1	7.9	10.0	8.9	9.3	理科
29.7	27.2	27.6	24.3	29.3	27.4	29.1	27.2	英語
5.5	2.4	1.0	5.4	4.3	3.4	3.7	3.6	専門教科
2.1	2.1	1.5	2.3	2.3	2.0	2.0	2.0	その他
2.2	1.4	1.1	2.7	2.6	1.8	2.0	2.0	記入ミス・無答

・ 数学、英語、国語、地理歴史、理科の順番で、1年次と比べ不得意教科の順位は同じである。
 ・ 英語を不得意とする回答が1年次より減少しており、学習方法が定着してきていることがうかがえる。
 ・ 数学、英語は1年次同様不得意が得意を上回っている。理科については、2年次になり不得意が得意を上回っている。
数学又は英語を不得意と感じている生徒が約6割にのぼることから、それらの生徒に対し、学習習慣確立に向けての支援をする等の工夫が必要である。

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
13.5	10.8	13.8	9.5	8.2	11.1	14.9	13.4	ほとんど毎日出ている。
31.0	31.4	31.6	27.2	22.0	28.8	36.2	29.1	週に2~3回出ている。
33.7	38.7	45.3	41.2	36.9	40.1	31.1	36.9	週に1回くらい出ている。
21.4	18.7	9.1	21.4	31.1	19.3	16.5	19.5	ほとんど出していない。
0.4	0.4	0.2	0.7	1.8	0.7	1.3	1.1	記入ミス・無答

・ , を合わせて、週あたり2回以上宿題・課題が出される割合が1年次と比べると11.2ポイント減少している。
 ・ ほとんど宿題が出されない割合も1年次よりも2.8ポイント増加し、家庭学習が生徒の自主性に任せられる傾向。
Q10の結果の1年次よりも家庭学習時間が減少していることから、2年次においても家庭学習習慣を確立していくための指導の工夫が必要であると思われる。

Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。 H20に新設した質問

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
7.2	10.7	11.7	10.2	5.0	9.4			ほとんど毎日ある。
27.1	37.0	51.1	28.2	22.8	35.2			週に2~3回ある。
27.2	27.0	27.0	29.2	30.1	28.1			週に1回くらいある。
37.7	24.9	10.0	31.6	40.2	26.6			ほとんどない。
0.8	0.4	0.2	0.8	1.9	0.7			記入ミス・無答

・ , を合わせて、週1回以上テストが行われる割合は約7割である。
 ・ ほとんど実施しない割合も26.6%である。
Q4の結果から、分かる授業に向けての各学校の工夫・改善が進んでいるものの、日常の授業における小テストの実施については工夫が必要であると思われる。

Q9 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか、最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
29.4	29.7	28.7	32.3	29.9	30.0	36.5	30.9	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
4.4	6.9	9.2	4.2	4.8	6.3	6.5	6.1	発展的な内容まで教えてくれる授業
43.5	43.8	43.5	41.0	39.3	42.3	38.2	42.6	興味や関心がもてるような授業
15.4	15.7	15.6	14.8	15.9	15.5	13.1	14.3	進路希望達成につながる授業
6.5	3.5	2.7	6.8	7.7	5.1	4.8	5.1	資格取得につながる授業
0.8	0.4	0.3	0.9	2.4	0.8	0.9	1.0	記入ミス・無答

・1年次よりも興味・関心がもてる授業を期待する声が4.1ポイント増加。
 ・逆に基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる体制を望む声は減少している。
生徒の発達段階・学習進度や深まりに合わせ、生徒の探究心を向上させるための授業改善や体制づくり等、各校の取組が望まれる。

Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
42.2	35.1	27.8	44.4	45.1	37.8	33.3	39.9	全く、またはほとんどしない。
15.0	13.5	11.3	12.3	10.9	12.3	13.1	12.2	30分より少ない。
12.3	14.3	16.6	13.7	13.0	14.3	16.2	15.3	30分～
19.0	20.3	26.8	19.4	19.0	21.5	23.5	19.9	1時間～
8.6	12.3	13.3	7.2	8.1	10.3	10.3	8.9	2時間～
1.7	3.1	3.0	1.5	1.6	2.3	2.1	2.1	3時間～
0.1	0.7	0.6	0.2	0.3	0.4	0.4	0.5	4時間～
0.5	0.5	0.3	0.6	0.1	0.4	0.3	0.4	5時間以上
0.6	0.2	0.3	0.7	1.9	0.7	0.8	0.8	記入ミス・無答

・平日に家庭学習しない者は37.8%にのぼり、昨年より2.1ポイント減少しているものの、1年次よりも4.5ポイントも増加し全体の回答の第1位を占めている。
 ・～の家庭学習にしっかり取り組んでいる層は0.3ポイント微増しているが、総じて30分～1時間前後に回答が集まる傾向。
 ・～の合計は1年次より0.5ポイントと微減し昨年度より1.4ポイント減少しているが、全体の85.9%が2時間未満の家庭学習時間となっていて、中だるみするとされている2学年を象徴する結果である。

Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
43.1	33.0	23.7	44.6	43.9	36.1	31.4	38.5	全く、またはほとんどしない。
12.3	9.5	7.3	11.1	8.8	9.4	10.4	9.6	30分より少ない。
10.8	10.1	9.8	10.3	9.1	10.0	11.4	10.8	30分～
13.0	16.4	21.1	16.5	15.9	17.2	18.5	16.8	1時間～
10.6	15.8	18.6	9.7	11.0	13.8	15.1	12.5	2時間～
5.9	8.2	11.5	4.0	6.0	7.5	7.8	6.5	3時間～
2.1	3.8	4.4	1.3	2.1	2.9	3.0	2.4	4時間～
0.6	1.6	2.0	0.6	0.4	1.2	1.1	1.3	5時間～
0.5	0.6	0.7	0.3	0.2	0.5	0.4	0.5	6時間～
0.4	0.4	0.7	0.4	0.1	0.4	0.3	0.4	7時間以上
0.7	0.6	0.2	1.2	2.5	1.0	0.6	0.7	記入ミス・無答

・休日に家庭学習をしない者が1年次より4.7ポイント増加し、平日とほぼ同じ割合となっている。
 ・～の回答から、休日に2時間以上の家庭学習をしている者の割合は1年次よりも1.4ポイント減少。
Q10とあわせて、2年次の家庭学習への取組が今後の大きな課題であり、各校での取組の改善が望まれる。

Q12 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
11.5	16.9	21.4	10.2	12.5	15.2	14.1	12.7	ほぼ毎日している。
3.2	4.9	5.2	4.5	3.8	4.5	4.5	4.0	主に平日にしている。
4.8	5.1	7.8	3.9	4.6	5.4	6.8	5.3	主に休日にしている。
19.8	20.1	16.4	21.9	22.6	19.9	7.2	11.0	主に定期考査前にしている。
5.1	4.1	4.8	4.7	3.0	4.3	4.4	3.4	主に宿題・課題のあるときにしている。
23.4	24.4	25.0	24.4	21.5	23.9	36.0	35.8	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
1.4	2.0	1.5	1.4	1.5	1.6	1.5	1.6	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
14.1	11.0	9.4	12.3	11.8	11.4	13.3	11.3	気が向いたときにしている。
14.5	9.7	7.5	14.3	15.8	11.8	10.5	13.0	家庭学習はほとんどしない。
1.2	1.3	0.7	1.5	1.2	1.2	1.0	1.2	その他
1.0	0.5	0.3	0.9	1.7	0.8	0.7	0.7	記入ミス・無答

・の毎日学習する層が1年次に比べ1.1ポイント、昨年に比べ2.5ポイント増加。
 ・の家庭学習をほとんどしない割合も1年次に比べ1.3ポイント増加。
2年次において学習意欲が低下し、その場しのぎの学習しかしない者が1年次よりも増えているものと思われる。
 ・家庭学習の習慣が身に付いていると考えられるの合計は19.7%で1年次よりも1.1ポイント増加しているものの、依然約8割の生徒に家庭学習の習慣化がされていない。
学校と家庭の連携、授業を中心とした学校の体制づくりを通した、家庭学習の推進が望まれる。

Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
6.0	3.9	4.0	5.2	5.7	4.8	5.5	5.8	国語
4.3	5.0	6.1	5.5	9.3	6.1	5.1	7.1	地理歴史
0.9	0.5	0.6	1.3	1.3	0.9	1.5	1.0	公民
27.4	43.5	43.8	33.9	28.1	36.9	39.3	34.8	数学
7.3	3.2	3.5	4.5	4.4	4.2	5.0	3.9	理科
19.0	27.0	31.8	23.4	22.6	25.8	23.3	24.1	英語
21.1	7.9	3.0	12.0	14.0	10.1	9.1	10.8	専門教科
13.0	8.2	6.7	13.2	12.8	10.2	9.4	10.8	その他
1.0	0.8	0.5	1.0	1.8	1.0	1.8	1.7	記入ミス・無答

- ・1年次同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。
- ・Q6の不得意教科は、数学、英語という回答が最も多い。

Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
15.0	11.3	11.6	13.2	14.2	12.7	13.7	13.2	家庭学習の方法が分からない。
25.5	28.5	31.8	28.7	25.7	28.6	25.2	26.7	家庭学習に集中できない。
16.6	16.9	14.9	15.8	13.6	15.5	14.5	15.5	学習の計画を立てても長続きしない。
14.9	17.3	17.9	14.7	14.6	16.1	21.2	17.5	家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.0	6.1	6.2	6.5	6.9	6.3	5.9	6.2	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
4.8	4.4	4.7	4.5	4.3	4.5	3.5	4.1	その他
16.5	15.1	12.6	15.9	18.8	15.5	15.0	15.6	特に悩みはない。
0.7	0.4	0.3	0.7	1.9	0.8	1.0	1.2	記入ミス・無答

- ・8割以上の者が何らかの悩みを抱えていることがわかる。
- ・「家庭学習と部活動の両立が難しい」とする者が1年次よりも減少。「家庭学習に集中できない」とする者が3.4ポイント増加。**集中を阻害する要因を探りながら家庭学習に集中できる環境づくりを保護者に考えてもらうよう、家庭との連携を進めていく必要がある。**また、「家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない」とするものが増加傾向にあり、学習意欲がわからないことにも大きく関わるものと考えられる。**授業や学習カウンセリング等を通して、具体的な学習方法について指導する必要がある。**

Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
67.7	73.3	77.1	68.0	69.7	71.9	71.6	69.0	必ずとる。
15.3	14.3	12.4	16.5	14.1	14.3	15.4	15.8	たいていとる。
8.9	6.0	5.8	7.5	7.4	6.8	6.2	7.6	とらないことが多い。
7.3	6.0	4.3	7.2	7.0	6.1	5.0		全く、または、ほとんどとらない。
0.8	0.4	0.4	0.8	1.8	0.9	1.8	7.6	記入ミス・無答

- ・朝食を必ずとる生徒が増加しているが、その一方で学年進捗とともに朝食をとらないことが習慣化する生徒が増加している傾向が見られる。
- ・数学・国語においても、朝食の習慣化と基礎学力定着度との相関関係が明確。**朝食をとらない習慣が学校生活に及ぼす影響を、生徒だけでなく家庭にも周知していく必要がある。**

Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
4.2	7.0	8.5	3.1	4.1	5.7	5.5	5.2	家庭学習
25.1	25.0	24.3	27.0	25.2	25.3	23.9	26.3	テレビやビデオ
13.0	11.7	12.3	12.2	12.1	12.2	10.7	10.5	ゲームやパソコン
21.6	15.7	14.8	22.5	18.7	18.1	22.0	19.1	電話やメール
4.3	3.2	4.0	3.5	4.0	3.8	3.9	3.8	読書
16.7	17.5	16.3	15.8	17.4	16.7	16.5	16.5	自分の趣味
3.0	4.1	4.3	2.8	3.6	3.7	3.7	3.4	家族との会話
1.5	1.3	1.1	1.6	1.1	1.3	1.2	1.1	手伝い
9.3	13.9	13.8	10.5	11.2	12.1	10.7	12.2	その他
1.3	0.6	0.6	1.0	2.6	1.1	1.9	1.9	記入ミス・無答

- ・「テレビやビデオ」、「自分の趣味」、「電話やメール」の時間が多く、Q14の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。この3項目を合わせると60.1%で1年次より2.3ポイント減少。
- ・「電話やメール」は1年次より3.9ポイント減少しているものの、依然として高い割合である。
- これらのことが家庭学習の時間を阻害している原因となっている。今後は一日の学習を計画的に行う習慣の育成が必**

Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
6.0	8.1	8.8	6.7	7.0	7.5	6.6	7.0	全く、またはほとんど見ない。
4.6	7.2	7.8	5.9	4.9	6.4	5.6	6.1	30分より少ない。
8.8	11.8	13.3	7.7	9.4	10.6	10.2	9.7	30分～
23.1	27.9	29.4	22.1	23.8	25.8	24.3	24.0	1時間～
25.1	22.8	21.5	23.5	22.9	22.9	24.3	24.6	2時間～
17.4	12.9	12.1	17.3	15.5	14.6	15.4	15.1	3時間～
7.5	5.1	4.4	8.8	7.1	6.3	7.0	6.9	4時間～
6.6	3.7	2.4	7.3	6.6	5.0	5.5	5.5	5時間以上
0.9	0.5	0.3	0.7	2.8	0.9	1.1	1.1	記入ミス・無答

- ・3時間以上見ている者は25.9%であり、1年次よりも2ポイント減少。

Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19
43.5	44.9	42.7	43.9	43.3	43.6	45.3	47.1
10.7	12.1	14.1	11.4	10.9	12.1	12.2	11.8
10.0	11.5	13.5	11.3	10.1	11.6	11.6	11.0
14.6	16.1	15.7	15.8	14.9	15.5	15.3	15.1
10.8	8.7	8.0	8.6	9.7	8.9	7.8	7.7
5.0	3.5	3.4	4.3	4.8	4.1	3.6	3.5
2.4	1.5	0.9	1.8	1.8	1.6	1.6	1.3
2.5	1.3	1.2	2.4	2.2	1.8	1.6	1.4
0.5	0.4	0.5	0.5	2.3	0.8	1.0	1.1

全く、またはほとんどしない。
30分より少ない。
30分～
1時間～
2時間～
3時間～
4時間～
5時間以上
記入ミス・無答

・1年次には「テレビやビデオ」に比して、平日にゲームを行っている者は少なかったが、1時間以上ゲームやパソコンを行っている者が、1年次よりも2ポイント増加している。

Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19
18.0	19.8	19.8	16.3	18.2	18.6	13.1	16.2
21.8	23.5	26.6	19.4	20.5	22.7	19.3	21.5
11.8	15.2	14.4	12.2	11.3	13.3	15.0	13.9
14.0	15.3	14.0	14.2	14.1	14.3	16.8	15.0
11.2	10.4	9.3	12.3	11.2	10.7	12.0	11.4
9.4	7.1	6.8	9.7	8.9	8.1	9.2	8.1
5.3	2.8	3.0	4.5	3.4	3.6	4.7	4.1
7.9	5.6	5.4	10.5	10.6	7.8	8.7	8.5
0.6	0.3	0.7	0.9	1.8	0.9	1.2	1.3

全く、またはほとんどしない。
30分より少ない。
30分～
1時間～
2時間～
3時間～
4時間～
5時間以上
記入ミス・無答

・1時間以上電話やメールを行っている者は、1年次よりも6.9ポイント減少はしているが、44.5%を占めている。「家庭学習に集中できない」大きな要因になっていると思われる。また、Q10での家庭学習を「全く、またはほとんどしない」37.8%の生徒の生活状況が推測できる。

Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19
58.0	64.9	54.7	55.7	57.5	58.1	55.3	59.0
16.4	13.7	20.5	19.9	15.4	17.4	18.0	17.0
10.4	10.5	12.3	10.3	11.0	11.0	12.0	10.7
8.2	6.0	7.9	7.8	8.5	7.6	7.9	7.7
3.7	2.8	2.5	2.8	3.0	2.9	3.3	2.8
1.3	1.1	0.9	1.4	1.1	1.1	1.5	1.1
0.5	0.4	0.2	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4
0.6	0.2	0.3	0.4	0.8	0.4	0.6	0.4
0.9	0.4	0.7	1.2	2.3	1.1	0.9	0.9

全く、またはほとんどしない。
30分より少ない。
30分～
1時間～
2時間～
3時間～
4時間～
5時間以上
記入ミス・無答

・60%近くの者が「全く、またはほとんどしない」状況であり、1年次よりも2.8ポイント増加。平日の読書はなお習慣化されていない状況である。朝読書や小論文指導で読書の時間を取り入れている学校が増加しているものの、読書の楽しさ等を伝える努力とともに、家庭や学校において習慣化を図る工夫が望まれる。

Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19
2.6	5.1	5.9	1.7	3.1	3.9	3.9	3.6
19.8	20.3	19.6	21.2	19.6	20.1	19.7	20.3
14.4	13.5	14.6	14.3	15.9	14.5	13.1	12.9
14.3	8.9	8.5	13.9	12.3	11.1	13.9	11.6
3.1	2.5	3.1	3.0	2.8	2.9	2.6	2.7
23.8	23.7	24.1	22.2	21.8	23.1	23.6	23.6
3.3	3.0	3.1	2.6	2.1	2.8	2.5	2.7
1.6	1.5	1.1	1.9	2.5	1.7	1.6	1.7
16.2	20.8	19.2	17.5	17.6	18.6	16.2	18.2
0.9	0.7	0.8	1.7	2.3	1.3	2.9	2.7

家庭学習
テレビやビデオ
ゲームやパソコン
電話やメール
読書
自分の趣味
家族との対話
手伝い
その他
記入ミス・無答

・「自分の趣味」の割合は微減しているが、「テレビやビデオ」、「ゲームやパソコン」、「電話やメール」が上位を占めており、本来平日よりも多い割合になって欲しい「家庭学習」については、平日と比べると低くなっている。

Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19
5.1	5.2	6.3	5.2	5.4	5.5	4.5	5.3
2.6	3.6	4.1	3.5	2.8	3.4	2.8	3.3
4.5	5.6	5.8	5.1	4.4	5.2	4.5	4.7
11.0	15.7	16.2	11.2	12.8	13.8	12.9	13.4
18.5	21.3	24.6	17.1	19.0	20.6	19.9	20.1
19.3	19.3	18.9	18.2	18.4	18.8	18.8	19.1
14.1	12.4	10.4	12.9	12.3	12.1	13.1	12.4
11.5	8.5	6.9	11.7	10.0	9.4	10.3	9.8
5.2	3.2	3.1	5.4	4.8	4.2	4.7	4.1
7.1	4.7	3.0	8.1	8.1	5.8	7.2	6.6
1.1	0.5	0.7	1.6	2.0	1.2	1.3	1.2

全く、またはほとんど見ない。
30分より少ない。
30分～
1時間～
2時間～
3時間～
4時間～
5時間～
6時間～
7時間以上
記入ミス・無答

・3時間以上見ている者は1年次よりも減少しているものの、50.3%と半数を超えている。
・約10人に1人は6時間以上もテレビやビデオを見ており、「家庭学習に集中できない」大きな理由となっていると考えられる。

Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
34.7	37.1	34.6	37.2	37.5	36.2	36.3	39.6	全く、またはほとんどしない。
7.9	8.7	10.8	8.4	8.5	9.1	9.9	9.4	30分より少ない。
8.0	8.6	9.4	7.5	7.1	8.2	8.5	7.9	30分～
15.5	16.1	16.4	14.5	13.9	15.4	15.2	14.7	1時間～
12.8	12.7	13.4	12.8	11.3	12.7	12.2	12.1	2時間～
8.5	7.8	7.4	8.1	8.0	7.9	7.5	6.9	3時間～
3.3	3.1	2.9	3.4	4.2	3.3	3.5	3.2	4時間～
3.2	2.3	1.9	2.4	3.0	2.4	2.5	2.0	5時間～
1.1	0.8	1.0	1.7	1.3	1.2	0.9	0.9	6時間～
3.9	2.3	1.9	2.8	3.1	2.6	2.3	2.1	7時間以上
1.1	0.5	0.3	1.2	2.1	1.0	1.2	1.2	記入ミス・無答

- ・平日と比較してゲームやパソコンを行う時間が長くなっている。
- ・1時間以上行っている者は平日より13.6ポイント多い状況である。

Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
16.8	17.3	17.2	14.8	16.7	16.6	11.6	14.6	全く、またはほとんどしない。
16.8	20.9	22.6	16.1	16.8	19.1	15.8	18.1	30分より少ない。
11.5	12.7	13.2	10.4	10.6	11.8	12.5	12.2	30分～
12.5	15.3	14.3	13.2	13.3	13.9	15.5	14.5	1時間～
11.2	11.3	10.6	10.5	11.0	10.9	12.0	11.4	2時間～
8.3	7.8	7.0	9.6	9.7	8.4	10.0	8.8	3時間～
6.5	4.3	4.6	6.3	4.2	5.0	6.0	5.4	4時間～
4.8	3.9	3.6	6.5	4.7	4.6	5.4	5.0	5時間～
3.4	1.3	1.3	3.0	2.2	2.1	2.4	2.2	6時間～
7.0	4.5	3.8	8.3	8.8	6.2	7.3	6.7	7時間以上
1.2	0.7	1.8	1.3	2.0	1.4	1.5	1.1	記入ミス・無答

- ・1年次よりも「全く、またはほとんどしない」「30分より少ない」が合わせて8.3ポイント増加。
- ・3時間以上の者は4.8ポイント減少していることからみても、学年進行とともに電話やメールの使い方が改善。依然として10%近くが6時間以上も電話やメールに時間を割いており、家庭学習時間の確保に向けた改善にはつながっていない。

Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H19	
60.5	64.4	56.2	61.5	59.0	60.1	56.0	60.0	全く、またはほとんどしない。
11.2	10.5	13.6	12.9	11.3	12.1	13.2	12.3	30分より少ない。
9.5	8.5	9.8	8.0	8.8	8.9	9.9	9.1	30分～
8.9	8.6	10.5	8.5	9.6	9.3	9.9	9.0	1時間～
5.1	4.2	5.0	4.0	4.5	4.5	5.2	4.4	2時間～
2.2	1.9	1.8	2.2	2.8	2.1	2.3	2.1	3時間～
1.0	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	1.0	0.9	4時間～
0.4	0.3	0.3	0.7	0.7	0.5	0.7	0.6	5時間～
0.1	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.3	0.2	6時間～
0.5	0.3	0.2	0.3	0.6	0.4	0.5	0.4	7時間以上
0.6	0.4	1.6	0.8	1.8	1.1	1.0	1.0	記入ミス・無答

- ・30分以内の者が7割を超え1年次よりもさらに読書時間が短くなっていて、読書の習慣が身に付いているとはいえない。平日の読書時間が確保できない分、休日を利用して読書をする習慣付けなど、各校の指導の工夫が必要である。

まとめ

2年生の特徴として、

- ・1年次よりも進路希望未定者が6.5ポイント減少し進路希望が具体化してきており、その達成についての考えも、「達成するまで、卒業後1、2年かかってかまわないと思っている」が3ポイント減少し、卒業までには実現したいと考えている層が増えている。
- ・学習についても、進路希望達成のために学習に積極的に取り組む姿勢が表れてきている。
- ・授業についても、授業が理解できると回答した生徒が2.8ポイント増加し理解力が身に付いてきており、分からないところも自分で解決していこうとする積極性と、さらに深く掘り下げてみようという探究心が向上してきている。
- ・週あたり2回以上宿題・課題が出される日の割合が1年次と比べると11.2ポイント減少しており、学校から出される宿題が1年次よりも減少し、学習方法に迷いが生じてきているものと考えられる。

2学年においても家庭学習に取り組ませる方策を各教科で検討することが必要であり、また、1年次から少しずつ自分で課題を見つけ学習する姿勢を身に付けさせて行くことも必要と思われる。

- ・「全く学習しない」者が平日は4.5ポイント、休日は4.7ポイントも増加しており、家庭学習時間が平日、休日ともに減少してきている。
- ・どのようなときに学習するかについても「定期考査前」の者が19.9%に増えるなど、学習がその場しのぎの対応になっている。その反面進路希望は具体化してきており、希望と学習に取り組む姿勢にギャップが見られる。

進路希望を実現するために、日頃のように学習に取り組むかなどを適宜アドバイスし、明確な目標を定めさせ積極的に取り組ませるための指導の工夫が必要である。また、教科に対する興味・関心をもち、探求心が育まれるような授業改善を行い、普段の授業等を通して「学ぶ喜び」をいかに与えていくか検討が必要である。今後は、読書時間を含めた家庭学習時間を計画的に確保し、平日だけでなく休日を効果的に活用する姿勢の育成が必要である。そのためには、課題や小テストの実施等についての工夫が求められる。

また、学校に行く前に毎日朝食をとることなど、家庭の協力も得ながら、基本的な生活習慣を見直す機会を設け、繰り返し継続的に指導していくような踏み込んだ指導がなお一層求められる。